

日本と韓国と西ドイツの青年の質問紙による
比較調査研究

岸 本 弘

目 次

I はじめに	1
II ローゼンバーグ自己評価テスト	2
1. 日本人学生の場合	2
2. 公州師範大学生の場合	5
3. ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学生の場合	6
4. 日・韓・西独学生と米の規準との比較	7
III 楽しかった学校・嫌だった学校	8
1. 日本人学生の場合	9
2. 公州師範大学生の場合	17
IV 学生たちの生きがい	20
1. 日本人学生の場合	20
2. 公州師範大学生の場合	24
3. 日・韓学生にみられる違い	25
V 日本人学生の日本人観	25
VI 学生たちの好きな国	28
1. 日本人学生の場合	28
2. 公州師範大学生の場合	35
3. 両国大学生の比較	36
注	38
英文要旨	55

日本と韓国と西ドイツの青年の質問紙による 比較調査研究

岸 本 弘

I は じ め に

本報告書は、私が1987年から88年にかけて、韓国の公州師範大学と西ドイツのヨハン・ウォルフガング・ゲーテ大学及び日本の嵯峨美術短期大学の知人の協力を得て、私の勤務校明治大学を含めて質問紙を使って実施した、大学生の比較調査研究の報告書である。

明治大学人文科学研究所年報 No. 29の中間報告で多少詳しく述べてあるように、調査の途中でいろいろな困難に直面した。まずはじめ調査協力を快諾してくれたゲーテ大学のO教授に、87年10月の三国一斉の同時調査実施直前になって調査をことわられた。その理由については中間報告で述べてあるのでここではふれないことにするが、一番大きな理由は、日本や韓国の大学とはヨーロッパの大学は組織が違うということであるらしい。ゲーテ大学には日本の大学のようなクラス組織は全くない。ヨーロッパ中を放浪し、自分の目的に合った講義を求めて大学間を遍歴する学生群の溜まり場ともいわれた、中世ルネサンス発生当時の大学の伝統は大筋としては、今もおヨーロッパの大学には脈々として生き続けているとの感を深くした。とくにフランクフルトは特殊な国際都市といわれ、大学にもあらゆる国々の学生が集まっている。カフェテリアで三日間とも好物の安いチキンの丸焼きの昼食を取った時には、むしろ中近東、アフリカの学生が目立ち、何人かの日本と韓国、ヴェトナムの学生も毎日みかけた。このようなところで私の求めに応じて150枚の調査用紙を回収しようとすれば、1,000枚位配布せねばならなかったかもしれない。しかも回収された学生の回答を以ってゲーテ大学生を代表させることができるかどうか？ O教授の悩みも解る気がしてきた。したがって、そのような学生の中から真面目に回答をよせる150人の西ドイツ人学生を確保するためには、個人的なつながりのある学生を選び求めて、ある程度拘束して答えさせる必要が生ずるであろう。この調査のため知人のドイツに帰化したS夫人を通じて最初から協力してくれた大学広報課のB夫人とK氏のご努力によって、結局は以前にそのような拘束をして調査をした経験をお持ちの心理学教室のD教授とT教授のもとで、以下の西ドイツの査調は88年になって行われた。なお88年後期には、ゲーテ大学では他の西ドイツの大学でもそうだったといわれるが、大学教師の増員と教室等の増加を求めて広く長く比較的静かな(?)ストライキが続いたようで、調査は長い期間を要し、B夫人から調査用紙が送られてきたのは、89年に入った1月末のことであった。ちなみにO教授の専門は政治経済学であった。以上のようないきさつから、ゲーテ大学の調査では、ローゼン

バーグテストだけしか実施できなかったのは、かえすがえすも残念であった。

次にこのような国際比較調査の場合、調査アイテムの翻訳上の問題がある。多くの知人の協力を得たが、とくにドイツ文作製では日本人ではT大学講師、M大学助手補、西ドイツ人では前述のゲーテ大学教師等。韓国文作製では公州師範大のK教授とC教授、日本人ではM大学講師及び留学生等。日本文作製では英人のC教授、S講師、日本人のK講師等々。これらの人々の暖い好意と協力に対しては、心から感謝のことばを捧げなければならない。また調査を実際に実施して下さった、西ドイツの心理学教室の方々、公州師範大の知人のK、C教授、嵯峨美術短大のN教授とT教授には感謝しても感謝しきれない恩義を感じている。調査に使った各国文は、巻末注(19)にのせてある。翻訳上の全責任はむろん私にある。

次に調査対象大学の選定は、全く私の知人を通じての思いつきから出発している。しかし韓国はGNP世界2位の日本に迫いつけ追いこせの掛け声のもとに努力を続けているばかりではなく、実際に最近の実績にはみるべきものがあり、今や日本の脅威にもなりつつある。しかも隣国韓国と日本の間にはいうまでもなく浅からぬ縁があり、今後も協力していかなければならない運命にある。また西ドイツとは、イタリアと共にわが国は同盟をくんで第2次大戦を起し、ともに大敗を喫した。しかしその後、相次いで奇蹟といわれる復興を遂げて、ともに世界中から注目されている。これに日本を占領し、第2次大戦後はともかくわが国にとって最も関係の深い国であったアメリカ（ローゼンバーグテストの規準はアメリカの青年）を加えて比較することは、日本の青年心理学研究者としては、非常に魅力的な研究テーマといえる。とはいえ私の選んだ大学が、そのような観点から比較するのに適当な大学であったかどうか？

韓国の公州師範大学は、首都ソウルから高速バスで2時間ほどの地方都市、公州市の郊外にある。公州師範大学のたたずまいは、日本の鳴門教育大学や兵庫教育大学に似た雰囲気で、こじんまりとした郊外に位置する教師専門養成の大学である。なお公州市は、1時百済の元首都であったこともあり、日本の奈良にあたるとは、上記両教授の証言である。ゲーテ大学はご承知の如く、西ドイツを代表させるには余りに国際都市であり過ぎるという声もある、フランクフルトにある、総合大学である。また調査対象学生には教師志望の学生は少ない。明治大学の調査対象学生は、教職課程で私の青年心理学を受講中の2年生が主体である。嵯峨美術短期大学の調査対象学生は、1年と2年の教養課程の心理学受講生である。最後に以上のような理由から、調査実施期間は1987年から88年の2年間にわたっており、厳密に言えば同時に実施したものではない。

以上の点をまず頭に入れて、意のあるところをお汲みとりのうえ、以下の調査報告をお読みいただくようお願いしたい。

Ⅱ ローゼンバーグ自己評価テスト (Rosenberg Self-Esteem Scale)

1. 日本人学生の場合

(i) 明治大学生

1988年11月に私の青年心理学の時間に出席していた294人の学生（男175人，女119人）に一斉に実施した。その学生の内訳は，和泉キャンパス（文学部2年生，男70人＋女59人）129人。神田キャンパス（文学部主体の法学部，商学部，政経学部，経営学部の学生をも含む2部2年生，男50人＋女37人）87人。生田キャンパス（少数の工学部学生を含む農学部主体の大部分が2年生である2年生以上の学生，男55人＋女23人）78人である⁽¹⁾。

図1，2は，男子学生と女子学生の得点をそれぞれキャンパス別に図示したものである。このテストでは得点の低い方が，自己評価は高いことになっている。なお得点合計の仕方は注(20)に記し

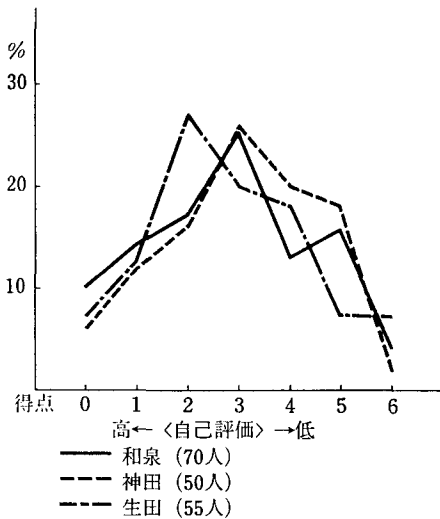


図1 明大男子学生（キャンパス別）

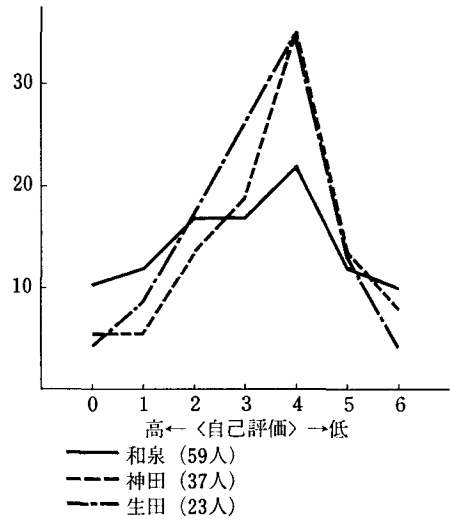


図2 明大女子学生（キャンパス別）

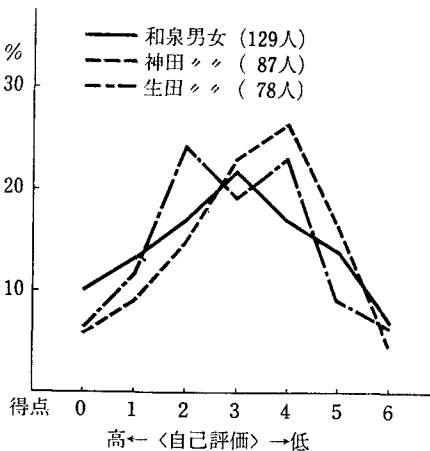


図3 明大キャンパス別比較

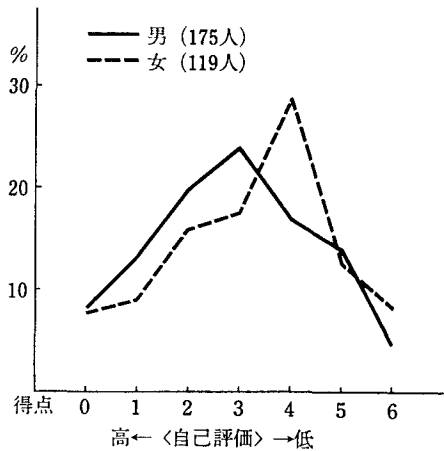


図4 明大男女比較

である。図によると男女ともにキャンパス間で多少の差がみられ、どちらかといえば男女とも1部学生の方が2部学生より自己評価が高い傾向がみられる。が、男女間の差ほど大きくはない。図3はキャンパス別の男女合計、図4は男女別の合計を示したものである。明大生の場合男子は得点3を中心に2の方向へ、女子は得点4に特に集中し、やはり3の方向へ傾いているとみてよいのではなかろうか？ したがって男女を合計すると、多少4に傾むいた3と4に得点が集まるのが明大生の特徴（この調査は男子175人、女子119人で、男子の方が6割近くを占めていることを考えると）とみてよいのではないか？ 図5は明大生294人の得点を図示したものである。なお明大生の集計表は、それぞれ注(2)の表a, b, cをみられたい。

(iv) 嵯峨美術短期大学生

1987年10月に教養課程の心理学の時間に参加していた134人の学生（男子13人、女子121人）に一斉に実施した。こちらは1年生（男子7人+女子63人）70人、2年生（男子6人+女子58人）64人で、男子学生が極端に少ないのは残念である。が、美術系大学的女子学生の特徴が以下随所にみられ、興味深い。

図6は、女子学生の得点結果を学年別と合計で図示したものである⁽³⁾。1年生と2年生で得点4と2で全く割合が一致しており、ただその中間点3で2年生がやや高くなっている。合計するとやはり得点4の割合が一番多く、ただ2位が得点2で得点3をややうわまわっているのが特徴といえ

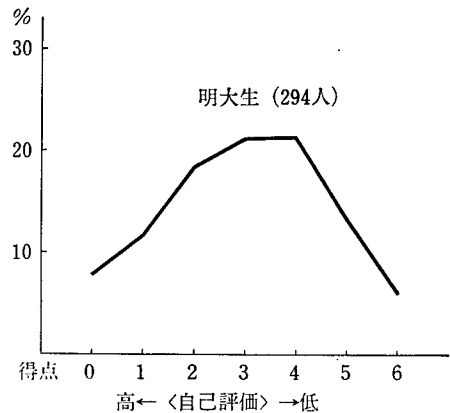


図5 明大学生合計

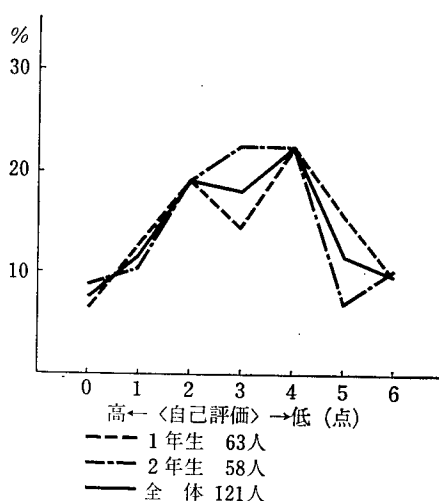


図6 嵯峨美術短大女子学生

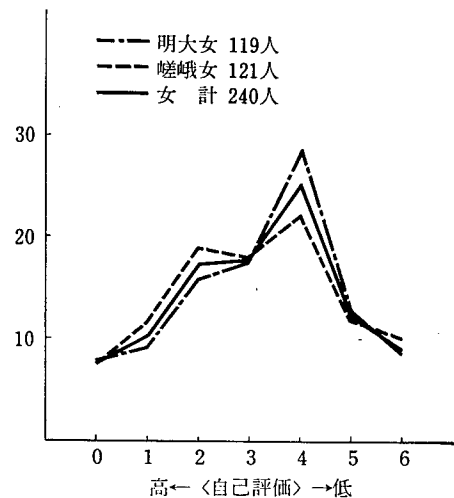


図7 嵯峨美短大と明大の女子学生比較

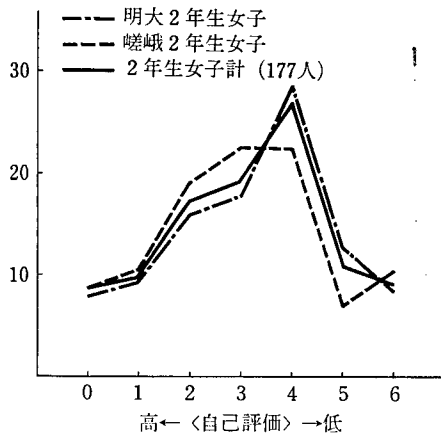


図8 嵯峨美短大と明大の年生女子学生の比較

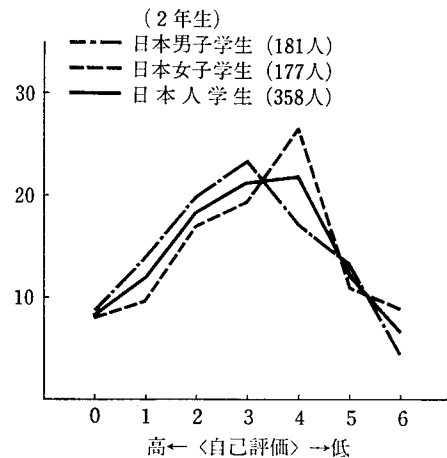


図9 嵯峨美短大生と明大生の比較

ようか。図7は明大と嵯峨美短大の女子学生を比較し、その合計をも図示したものである。ここでも得点3は全く一致し、嵯峨の方が2へかたよっているだけ4が少なくなっているのがみられる。いずれにしてもさしたる差はみられず、全く似かよった結果が出ているとみてよいだろう。

(イ) 日本人学生の特徴

図8は、明大、嵯峨美短大2年生女子の比較及び合計を図示したものである。図9は明大、嵯峨美短大男女それぞれと日本人学生全体を図示したものであり、図10は両大学の男女2年生の比較及び合計を図示したものである。日本人学生の特徴は、明大生の特徴として述べた時に予想した通りになっている。なお集計表は注(4)に集録した。

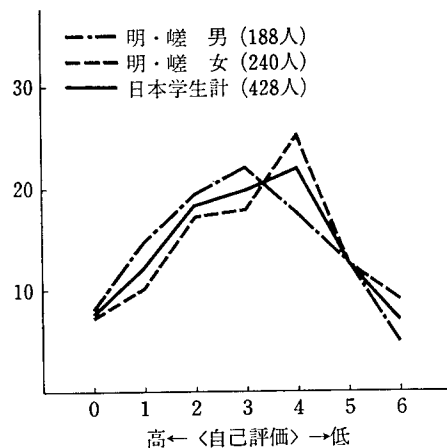


図10 日本人男・女学生

2. 公州師範大学生の場合

1987年10月、公州師範大学でK教授とC教授によって114人の学生(男子52人…19歳～28歳;物理学科23人,図書館学科3人,生物教育学科16人,生物学科10人。女子62人…20歳～23歳;物理学科9人,図書館学科26人,生物教育学科14人,生物学科13人)⁽⁶⁾に対して実施された。図11は男女学生の結果を、図12は男女合計の結果を図示したものである。日本人学生にくらべて男女とも自己評価が非常に高いのが目立つ。男子は得点1が焦点で2がこれに続いて高く、この両者で6割7分を占めているのが注目される。女子はこれとは逆に得点2が1番高く、得点1がこれに続き、この両者でちょうど5割になっている。それで男女の調査人員の差は女子の方が10人多いが、合計すると

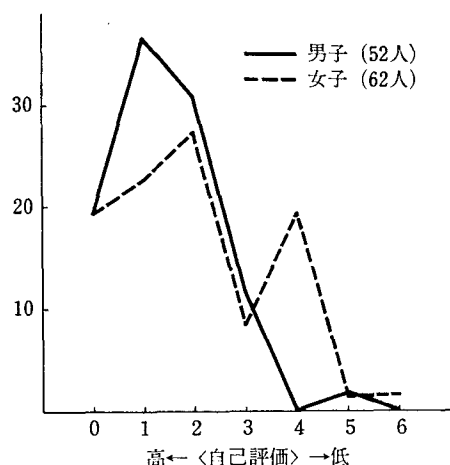


図 11 公州師範大生, 男女比較

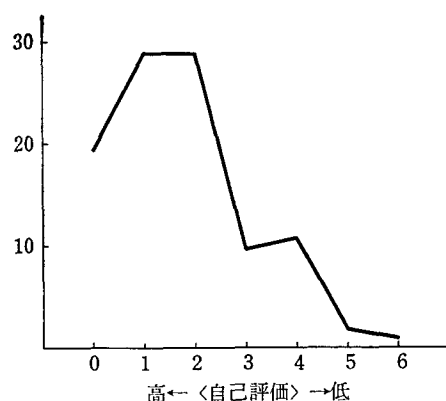


図 12 全公州師範大生

得点1と2の割合が同率の28.9で一番高く、この両者で得点の6割近くを占めている。いずれにしても日本人学生とくらべて男女ともに自己評価がたいへん高い点が注目される。なお集計資料は注(6)にまとめられている。

3. ヨハン・ヴォルフガンク・ゲーテ大学生の場合

1988年10月から12月にかけてD教授の管理下で126人の学生(男子66人…19歳～25歳, 女子60人…19歳～26歳)に対して個別に実施された。図13は男女学生の結果を、図14は合計の結果を図示したものである。日本人学生にくらべてはむろんのこと、韓国人学生にくらべてなお一層ゲーテ大学生の自己評価の高いのが目立つ。ゲーテ大学生の場合、むろん男子の方がここでも高いが、男女と

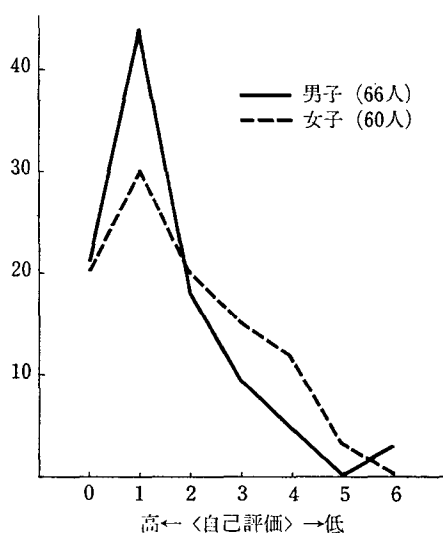


図 13 ゲーテ大学生の男女比較

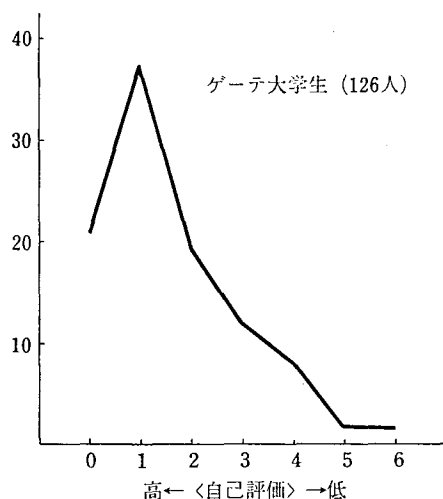


図 14 全ゲーテ大学生

もに最高得点の高い割合が得点1に集中しており、男子では4割をこえ、女子でもちょうど3割、男子では2位が得点0でこの2つで6割をこえており、女子では0点と2点の割合が2割で等しく、この0点、1点、2点の3合計で7割に達しているのが注目される。したがって男女合計ではこの三得点獲得者が合計で7割7分、つまり8割近くを占めているのが特徴といえる。集計表は、それぞれ注(7)のa, b, cとして示されている。

なお調査前の懇談の席では、私はアメリカ青年が自己評価が一番高いのではないかと予測したが、ゲーテ大学関係者、特に私の知人の前述のS夫人からは西ドイツ学生が一番高いにちがいないと強く主張された。後述するように全くその通りの結果になっている。この点については、彼らとお会いできる機会があれば、討論できることを楽しみにしている。

4. 日・韓・西独学生と米の規準との比較

以上日本の嵯峨美術短期大学と明治大学、韓国の公州師範大学、西ドイツのヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学の学生を対象に実施した、ローゼンバーグの自己評価テストの得点結果を個々にまとめてきた。その個々の結果を男子学生、女子学生別にまとめて比較図示したものが図15、図16である。図17は各国の男女学生の合計得点を比較図示したものである。男、女、全体どれをみても、日本人学生の自己評価の低いのが特に目立つ。そして韓国と西ドイツでは、男女ともに西ドイツの高さがはっきりしている。

次に図18は、ローゼンバーグがアメリカの青年3,071人に実施した、いわゆるローゼンバーグの

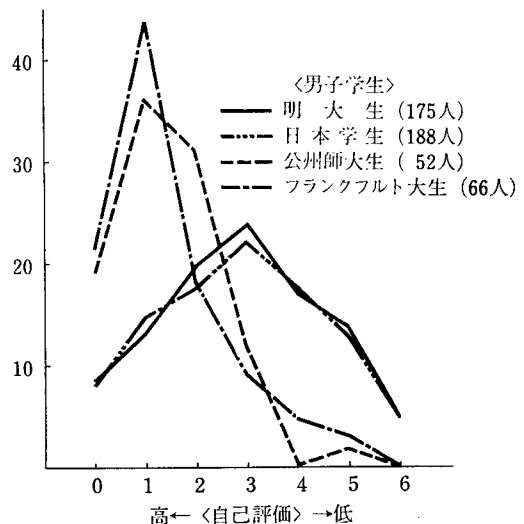


図 15 日・韓・西独男子学生の比較

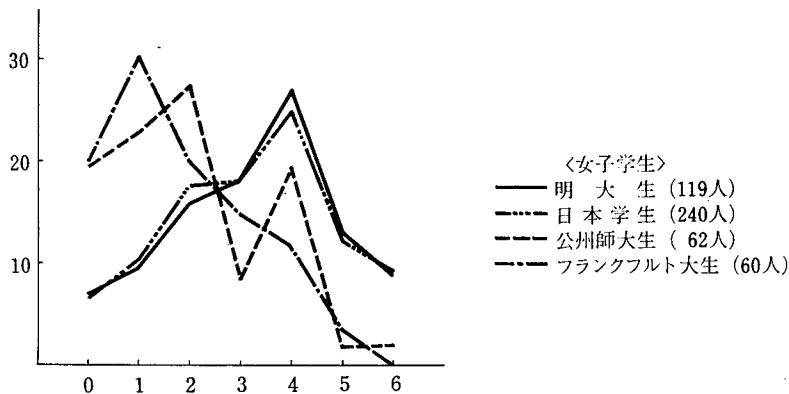


図 16 日・韓・西独女子学生の比較

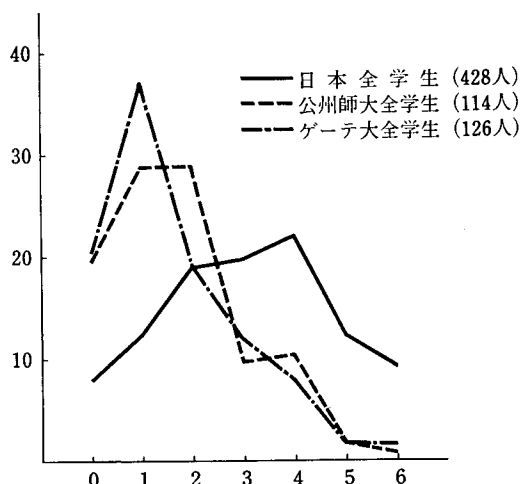


図 17 日・韓・西独学生の比較

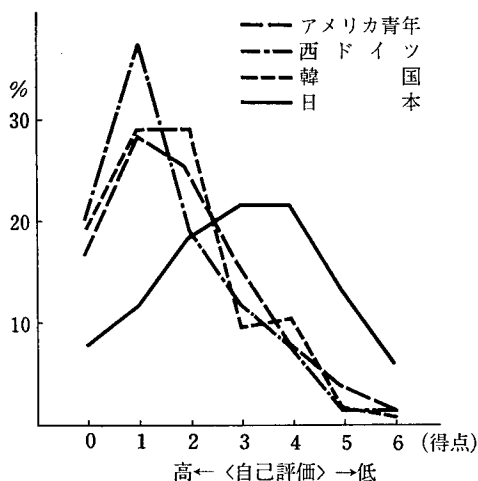


図 18 日・韓・西独・米の大学生の自己評価比較

自己評価テストの標本を加えて比較図示したものである。これをみても、ゲート大学生と公州師範大学生は、多少の違いはあれ、ローゼンバークの標本に近似しているといえるだろう。この点でも日本人学生は、特異な自己評価の型を示し、たいへん低いのが目立つ。この結果についてまず考えられることは、「自己を卑下し、謙遜するのが美德とされる日本文化の特徴」が見事に反映されているということであろう。それからもう一つは、女子の自己評価がどの国でも例外なく低いことである。これはよくいわれるように、現在の男性中心の社会では、男子には失敗を恐れる強い失敗回避動機が、女子には成功そのものを恐れる成功回避動機が強く働くからと考えられる。つまり女子には男子に抜きん出て才能のあることを示すことは、時に不利なことが多いというわけである。男女平等が進むにつれて、この差はちぢまり、遂にはなくなるだろうともいわれている。この点では男女平等を謳っている、社会主義国の実態を調査に加える必要をここでも痛感するのである。またこの差は、自己評価の点でも動揺し、やがて固まるとも考えられる、高校段階ではどうなのか？文化心理学的立場だけでなく、発達心理学的立場からも考察する必要を痛感している。ともかく文化の反映だとしても、男性、女性とも、日本大学生の自己評価の低さがたいへん気になる調査結果であった。この点についての詳しい分析は後日のこととし、ここでは調査結果を忠実に述べることを主眼とした。

Ⅲ 楽しかった学校・嫌だった学校（日・韓学生の比較）

これ以後の比較調査は、前述の理由で日本と韓国だけで行われた。

次のような質問文で、回答を求めた。

○ 今までのあなたの次の学校段階で楽しかったと思う順番を左側に、嫌な順番を右側につけて下さい。

その理由

() 幼稚園 ()
 () 小学校 ()
 () 中学校 ()
 () 高等学校 ()
 () 大学 ()

その理由

1. 日本人学生の場合

(i) 明治大学生

調査は、和泉キャンパスと生田キャンパスで、1987年12月の私の青理心理学の時間に出席してい

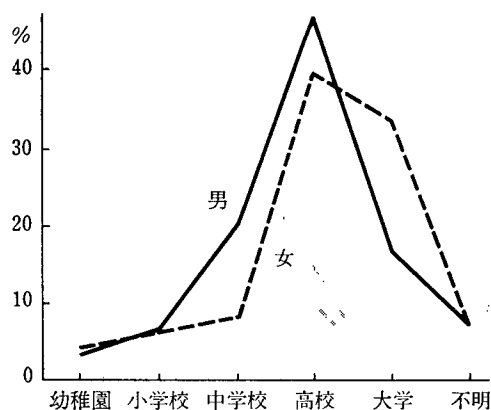


図 19 一番楽しかった学校 (和泉の男女比較)

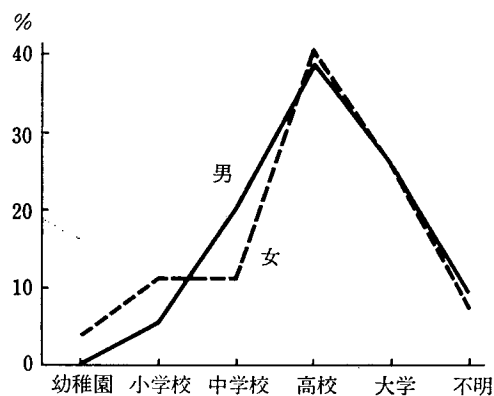


図 20 一番楽しかった学校 (生田の男女比較)

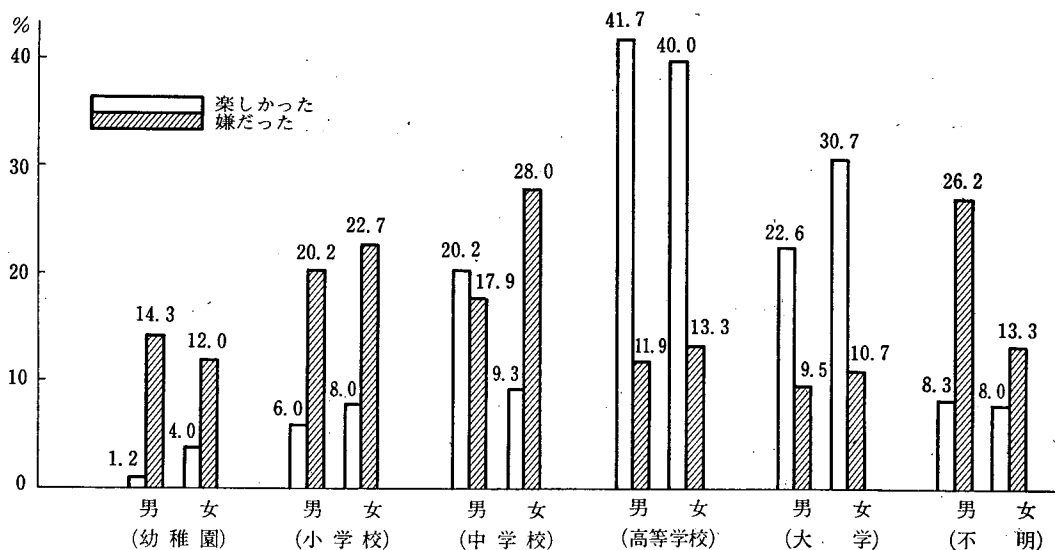


図 21 一番楽しかった, 嫌だった学校 (和泉+生田の男女比較)

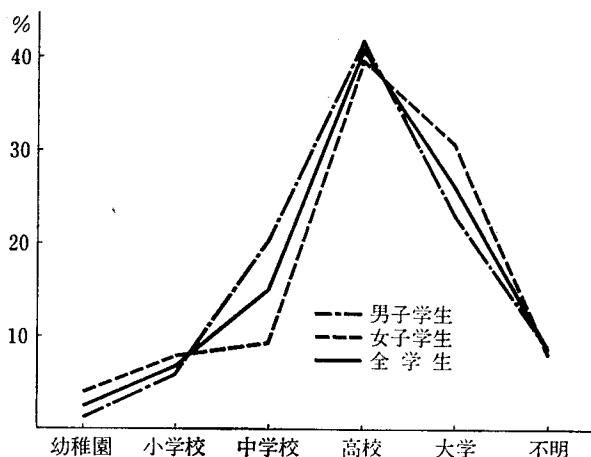


図 22 一番楽しかった学校 (男, 女, 全体)

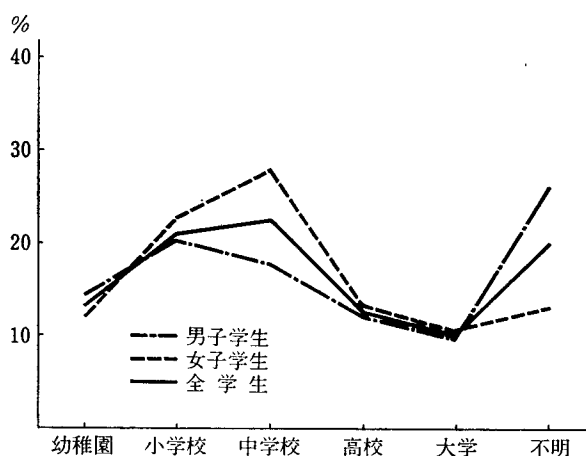


図 23 一番嫌だった学校 (男, 女, 全体)

た学生を対象に実施した。その内訳は、和泉は文学部の2年生で男30人、女48人計78人、そのうち19歳から21歳のものが男27人、女48人計75人であった。生田は2年生69人、3年生6人、4年生3人、聴講生1人、不明2人；男54人、女27人計81人で、農学部69人、工学部11人、不明1人；そのうち19歳から21歳のものが男子43人、女子21人計64人であった。

図19, 20, 21, 22, 23は、楽しかった学校、嫌だった学校の1位に回答された学校を男女、キャンパス別、合計等でそれぞれ図示したものである。なおそのもとになった集計表は、注(8)に集録してある。

教職課程履習中の明大生にとっては高校が一番楽しかったようで男女、キャンパスでさして違いはなかった。そして女子にとって、多少小学校から中学校にかけて発達上の超えにくい壁があるようにみられた。これは嫌だった理由の解答者には記入なしが割合多かったが、少ない記入例の中で浮き彫りになり、かえって強く推定された。それらの例について少しみてみよう。

農学部的女子学生では、一番楽しかった学校は高校が圧倒的で、次いで大学の順になっており、

この2つで7割近い。一番嫌だった学校は、中学校と小学校でこの2つで逆に6割以上を占めている。小学校と中学校は友だち関係が余りよくなく、いじめ等もあるようで、特に中学校は思春期の悩み多き時期を思わせ、思春期が重かったと述べている学生もいる。一方、高校は、逆に友人が多くなり、雰囲気の合った学生は部活動にも熱中し、何もかも充実していたことがよく解る。次いで大学をよしとする学生は、大学で自分のしたいことを自由にするのができ、よい友だちに恵まれた場合の幸福を卒直に述べているのが目立つ。しかし一方では大学で、心から話し合える友だちを持てず、不満を表明し、大学生活がつまらないと述べている学生も何人かいる。典型例を次にあげてみよう。

高校——「女子高で友人が多く楽しかった」「クラブに熱中し、純粋な夢も持てた」。一方「高校の選択を誤って、つまらなかった」「中・高一貫教育の高校へ転校して、仲間に入れてもらえなかった」

大学——「いろんなことが自由にできるから」「好きなことができ、よい友だちができたから」。一方「大学はつまらない」が以上のように2人いた。

中学——「友だちがうまくいかなかった」「思春期が重かった」「いじめられたから」

農学部男子学生では高校——「先生も面白く、友だちも個性があった。大学は学部の選択を誤った感がある」「小学校の頃は劣等生とみられていたが、高校になって部活をしっかりとやって周囲から認められたから」「大学は自分の想っていたところと違い過ぎた。高校の時間が一番輝いていたと思う」「友人が多く親密だった」。一方大学については、「校則にしばられない」「よい友だちができた」「今までの人生の中で最も印象深い時期である」「自分の責任で納得がいくように生きられる。そのための時間がある」。一方逆に「成人し社会的責任もあり、悩むべきことが多い。子どもでいたい気持ちが自分にあるためと思われる」。中学についても「人間関係が今よりも単純で、気を使う必要が比較的少なかった」。逆に「校内が体制的でつまらなかった」「陰険な人が多かった。不良が多かった」。また小学校についても「いじめられた記憶しかない」「小学校時代は劣等生とみられていた」等々。

文学部男子学生は、

高校——「自分自身とまわりの雰囲気がぴったりとあって」「一番充実し面白かった」「部活で友人と日々楽しく接した」「友だちと青春時代を謳歌できたから」

大学——「大学は楽しくてしょうがない。しかし社会に出ればもっと楽しくなると思う」「小さい頃にうじうじするくせがあって苦労したと思うから、おとなになるにつれて人生を楽しんでいると思うから」

一方小学校——「中学入試でくるしかったし、いじめっ子がいたから」中学——「自分には全く合わない環境だった」。逆に中学——「楽しかった青春ってことかな」「最も自分自身充実していた」逆に大学——「高校時代は目標があったが、大学ではまだよく解らない」「中学が青春で一番よく、大学で人生は終わった」等々。

文学部女子学生は、

小学校——「私はいじめられっ子であった」「転校したが、なかなか新しい学校になじめなかった」(男女を問わず、小中学校時の転校には問題があるようだ)「小学生の頃自分はいわゆる優等生で、先生にえこひいきされ思い上がっていた。そのことを思い出すとたまらなくはざかしい」

中学校——「学校がきらい！ 先生が最低」「いじめられた」「校則というどうしようもないものがあった」「管理教育はきらいだ」「けんかの仕方が幼稚で、定期的に仲間はずれごっこかしていた」

高校は逆に——「高校の頃はいろいろ目覚める頃だったから」「小・中学校は何かしぼりつけられていたという感じでいやだったが、高校では友だちがとてもよく、いろいろと充実していた」「楽しいことも多かったが、荒れる中学でクラス委員等をやっていて先生と友人との間の板ばさみで苦勞したが、高校では親友とよべる人たちに出合え自分の思っていることができた」等々。

大学——「今が一番充実している」「自由な時間を持てる」「いつも現在が一番楽しいと思うから」(この最後のような表明者は大学、男女を問わずいるようである)。このような一番好いという学生とは逆に「楽しいと思うことがない」「高校時代には熱中するものがあったが、今は目標がない」「考え方が違いすぎ、信念のない人が多く、単なる友人で表面的な話しかできないのはさびしい」「いつも楽しいが、社会人になった時、これが通用するか疑問で、不安がある」「社会に出るのが近づくにつれて不安が伴ってくる」等々。

(四) 嵯峨美術短期大学生

調査はローゼンバーグテストと同時に同じ学生に対して行ったが、回収数は1年生が2人だけ少なくなっている⁽⁹⁾。他は全く同じで男子学生は13人であった⁽¹⁰⁾。図24、25、26、27は女子学生、1年生と2年生の回答を図示したものである。嵯峨美術短大女子学生にとっては、一般的にいて高校、大学は楽しさいっぱいといった感を受ける。両校を合わせると1年生2年生ともに7割前後を占め、特に大学が楽しいというのは、自分の好きな勉強ができるという美術短大の特殊事情によ

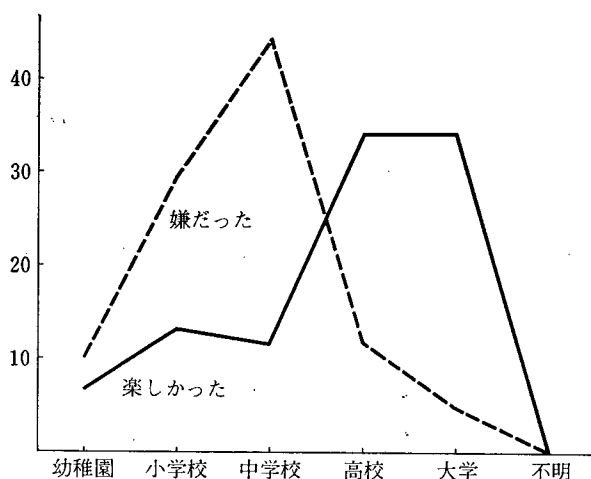


図 24 楽しかった学校、嫌だった学校 (1年生)

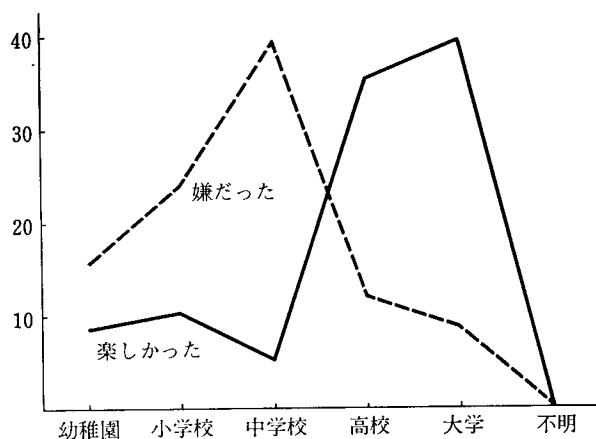


図 25 楽しかった学校, 嫌だった学校 (2年生)

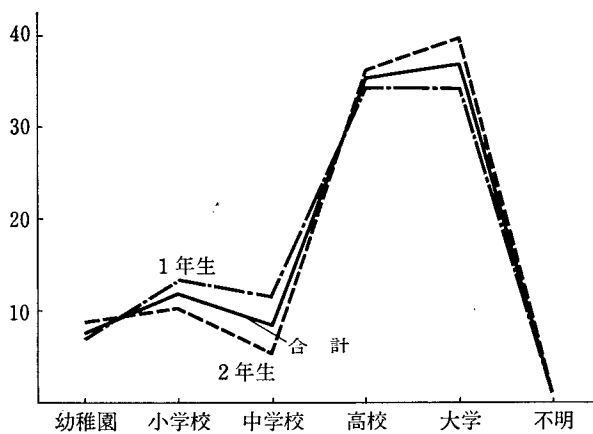


図 26 楽しかった学校

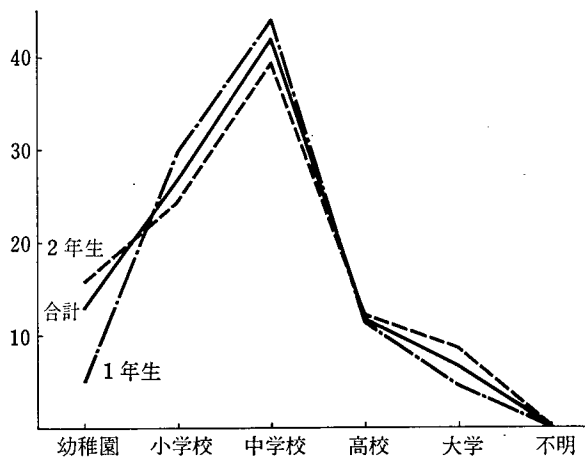


図 27 嫌だった学校

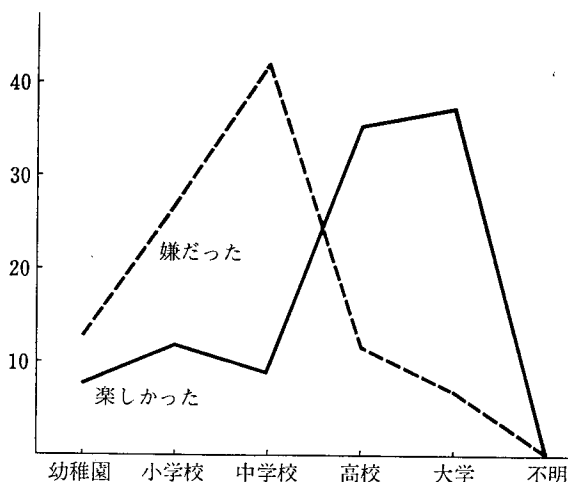


図 28 楽しかった学校、嫌だった学校（全女子学生）

るのではないと思われる。そして嫌な時期として中学校がともに4割前後と、この点も極めてはっきりしており、1，2年生でさしたる違いはみられない。この点は彼らがあげている楽しかった理由、嫌だった理由をみれば一層明らかになる。一番楽しかった学校は高校と大学に集中し、2分しているのが嵯峨美短大女子学生の場合の特徴である。これは1，2年生ともほとんど違わない。高校が楽しかったというのは、苦悩の多い小学校、特に中学校時代を乗り切って（自分にはその意識はないようだが）、楽しい青春が始まり、それを謳歌している様がよくみてとれる。逆に小学校時代にはいけずな男の子や友だちがいて、先生も頼りにならず、うまく学校生活に入っていけなかった点があったらしい子がうかがえる。その傾向は思春期中学時代に最高潮に達し、いじめやしかと等もかなり体験している。人の悪い面ばかりが目につき、学校の管理体制に対する反発も加わる。そのような嫌な環境の中で、「うじうじ」として本当の自分を発揮できず、情けない情緒不安定に対する自己嫌悪に落ち入ることの多かった、文字通り長い中学の思い出を持つ学生がかなりいるらしい。そのような暗い長いトンネル時代を乗り切って、大学にまがりなりにも入れた学生には、高校時代は親友や時には恋人を持つ体験をし、ある面では勉強々々の進学で多忙ではあるが、部活動やいろいろな友人、教師にも会えて、充実した生活を送っている者がかなり多いようにみえる。更に大学が一番よいという学生には、特に望みの美術大学に入れ、好きなことが自由にできる今の生活を楽しんでいる様がいへんよくうかがえるのである。その過程を象徴的に表明している学生のこたばをあげて、学生自身に語ってもらおう。

「小学校の時友だちに仲間はずれにされた」「先生が嫌いだった」「良く友だちとケンカしたり、いじめられたり、いじめたりしたこともあったから」「いやな友だちがいた」「なんだか長かった」「けんかがとにかく多かった」。一方ごく僅かだが「勉強のことなんか全然気にせず、すべてが自由だった」「大変良い先生、良い友だちにめぐり合い、卒業式には全員先生も含めて別れたくない」と泣いてしまったほど印象に深く、暖い人達にかこまれていた」という人もむろんいる。中学時代

にも「初めて異性を好きになったから」というように高く評価する者もほんの僅かいるが、多くは「まわりの人がきらいだったし面白くなかった」「いろんなものにしばられたから」「男子が少しいけずだったから」「なんだか長かった」「嫌いな気の合わない友人の何人かがそばにいた」「精神的に悩んだり、病気になったことが多かった」「中学校ではいじめっ子がおった」「なんとなくいやなことが多かった」「中学生の時は情緒が不安定であった上、転校したのでなかなかじめなかった」「いじめの問題があって、自分がそのまともにならないかという不安やトゲトゲした雰囲気があり、思いきり自分をうまく表現できなかった」「中学時代の自分のイメージがたいへんよくない」「信頼していた友人や先輩に急にいろいろいわれたりして、ちょっとしたことでたくさん傷ついた」「人間の一番いやな部分が見えた」「とにかく中学時代の自分はうじうじしていやだった」

逆に高校が一番楽しかったという人は多い。

「高校が美術系の学校で自分の好きだと思ったことをやれる科だったので楽しかったし、友だち関係もいろいろあったが、今思うと最高だった」「小学生、中学生は人の気持をすぐ傷つけるけれども、高校生になると相手の気持を考えて行動するようになるから、高校には最高の自由があった」「高校では親友ができ、何事も話し合え、刺激も多く本当に充実していた」「恋人もはじめてできたから」「高校が私の一番の青春だった」(以上1年生)。「チャホヤされた。中心に居れた。親友にめぐり会えた。」「クラブ活動が楽しかった。自分らしさを見つけだすことができた」(以上2年生)。高校になると女の子は一つの壁(?)を乗り越えるのではないかと、もっともこれは大学まで入れた子どもたちで、何らかの理由でここまでこれない子もいるのかも(?)……この点についても今後調査してみたいと思っている。

大学が一番楽しいと答えた例

「今が最高、自分にとって楽しい、何もかも」「自由だし、時間があるし、お金もあるから好きなことができる」「学年が上がっていくにつれて新しい友人ができる。いろいろ知らなかった世界が解ってきた」「高校も好い友人、好い先生がいたが、大学の方が時間にとらわれないのでできるので行動範囲もぐんと広がった」「自分のやりたかったことが専門的にでき」「いろいろの友人、先生に会い、いろいろ教えられるから」(以上1年生)。「大学は自分で選び、自分の好きなことができる」「私は変わりものだったので一部(特に男子)に変な目でみられていたが、まわりに同じような趣味を持つ人が多く楽しい」(以上2年生)

一方「気に入らない大学に入学してしまったから」「大学に入って将来のことや、今の自分につ

表1 一番楽しかった学校、一番嫌だった学校(男子)

	楽しかった						嫌だった						計
	幼	小	中	高	大	不	幼	小	中	高	大	不	
1年生	0	2	2	1	1	1	1	0	2	1	2	1	7
2年生 (専科生を含む)	0	0	1	2	3	0	2	1	2	1	0	0	6
計	0	2	3	3	4	1	3	1	4	2	2	1	13
%	0	15.4	23.1	23.1	30.7	7.7	23.1	7.7	30.7	15.4	15.4	7.7	100

いてよく悩む」「大学は期待はずれのことが多く、ボツとしている人が多く、ぜいたくで物を粗雑に扱う」「心から話し合えない」

男子になると、だいぶん様子が違っている。人数が少ない（そのことがまた大きく関係している）のではっきりしたことはいえないが、学部学生と専科生では年齢は変わらないのだが傾向がたいへん違うようである。つまり学部学生の間には望みの大学に入れたのではなかったという不満者が多いのにくらべて、専科生では目標がはっきりしているという点から大学をよしと考えているものが多く、ここからこの違いは出てくるものと思われる。次にその典型例を少しあげてみよう。学部学生で一番嫌な学校として大学をあげている理由は、

「高校、大学と男子校だったので、男くさい、男っぽい生活を送り、この頃が一番友人もできた。現在は学業は別にして、友人関係において女性が多い点と、年齢の差が問題になり、余り楽しいとは思わない」（唯一の大卒後入学学生）「学校にしばられたり、学校の雰囲気がいや」「大学は人目ばかり気にしていて自分勝手なことがやりにくい。高校はそれぞれの人に青春があって、見ていて面白かった」一方専科生が一番楽しい学校としてあげている理由は、

「大学は学生という身分を利用して、前向きの意味で好きなことができる」「自分のやりたいことが全く自由にできる」等。

(ハ) 日本人学生

図29, 30は、明大生と嵯峨美短大生を合計して図示したものである⁽¹¹⁾。日本人学生の特徴はこの両大学生からみる限り、最も楽しい学校は高校、次いで大学と考えられる。そして嫌だった学校は中学校、小学校ということになる。そしてこの特徴は特に女子学生に、一層はっきりしているといえる。この点については、今後大学に進学しない6割以上の青年や2部の学生、高等専門学校の学生等々とも比較してみる必要があると考えられる。とにかく明治大学クラスの大学の教職課程履習男女学生、及び美術短期大学クラス的女子学生の傾向は、かなりはっきりと掴むことができたのではない。なお幼稚園時代については、余りふれなかったが、「楽しかった」、「嫌だった」ともに、記憶がないので一番に順番をつけたというのが多かったのでふれなかったことをつけ加えておきたい。

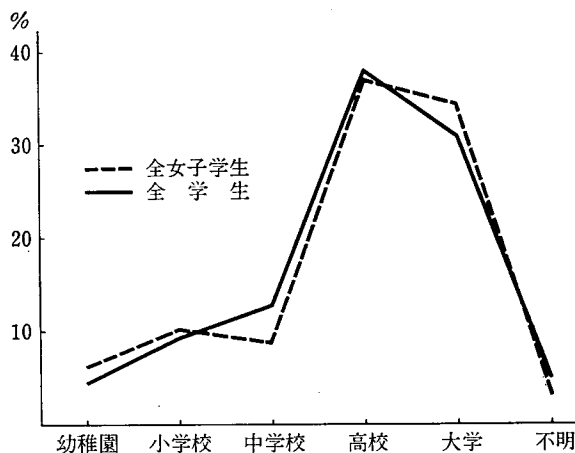


図 29 楽しかった学校

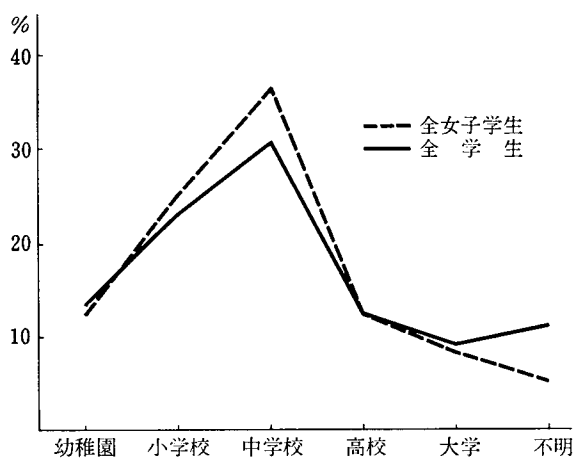


図 30 一番嫌だった学校

2. 公州師範大学生の場合

調査は、前述のローゼンバーグテストと同時に実施された。回収枚数には同テストとくらべて男子は1枚少なく、女子は8枚多い、計121枚となっている。図 31, 32, 33, 34, 35 は一番楽しかった

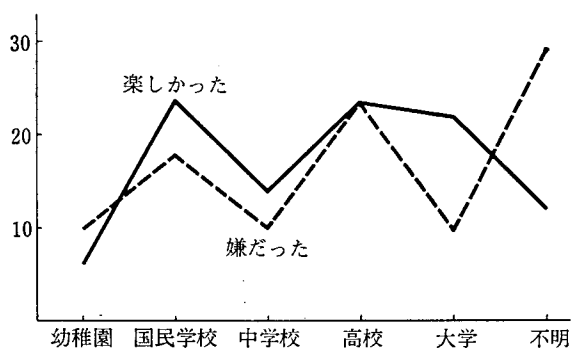


図 31 一番楽しかった学校、嫌だった学校 (男子)

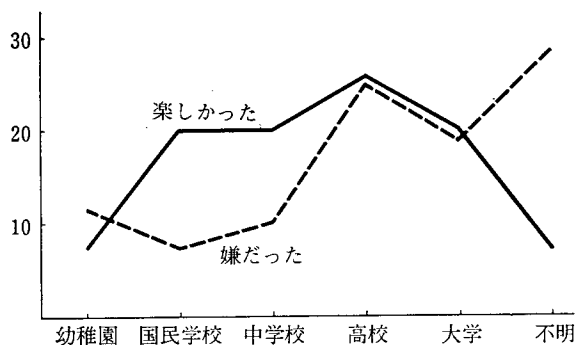


図 32 一番楽しかった学校、嫌だった学校 (女子)

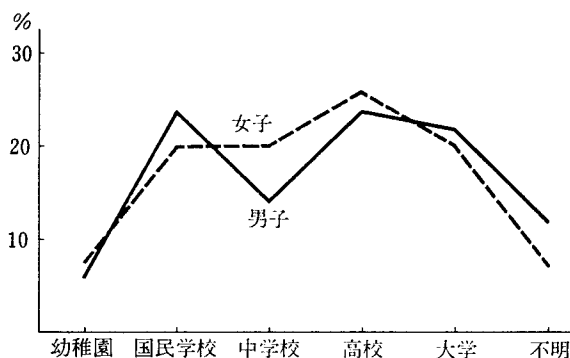


図 33 一番楽しかった学校 (男女比較)

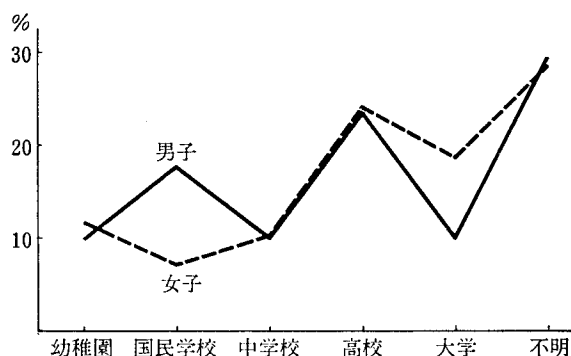


図 34 一番嫌だった学校 (男女比較)

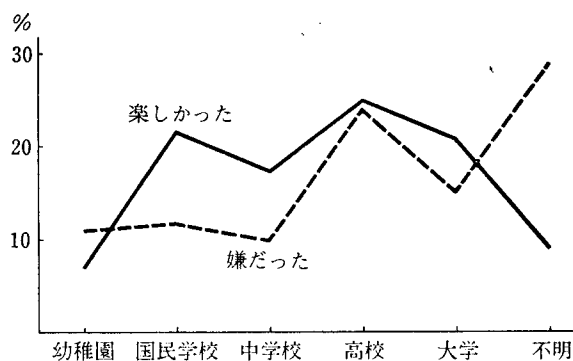


図 35 一番楽しかった学校, 嫌だった学校 (全学生)

た学校, 一番嫌だった学校を男女別, 合計で図示したものである⁽¹²⁾。

一番楽しかった学校と一番嫌だった学校が, 日本の場合のように全体像として余りはっきりしていないのが特徴といえる (図36, 37参照)。個々人にははっきりした学校があるのかもしれないが, たとえば高校は楽しさでも嫌さでも1位になっている。これは男女ともそうになっている。そして全体としての2位の楽しかった学校, 嫌だった学校も男子では国民学校, 女子では大学になっている。

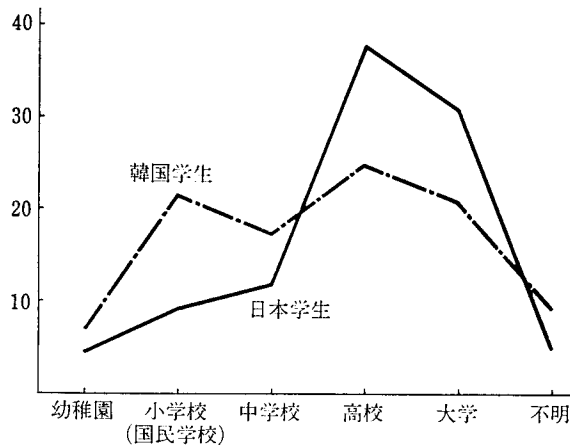


図 36 一番楽しかった学校 (日韓比較)

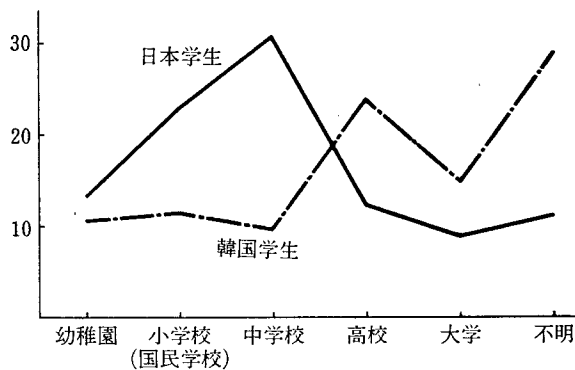


図 37 一番嫌だった学校 (日韓比較)

以下、日本人学生の場合にならって、楽しかった理由、嫌だった理由としてあげているものの中から、少し紹介してみよう。嫌だった理由をあげているものは少なかったが、理由の全記入数は、男女ともに20人ずつ、合計40人であった。

まず男子学生から

大学を一番楽しかった、嫌だと答えている人の例を一つずつ

「だんだん年を取るにつれて、真の喜びを悟らしてくれるから」「中学校は故郷にあって、大部分の生徒たちが同じ小学校からの友だちだったので、生活の適応も早く、団結もよくできた。大学入試は大変だったし、田舎から出てきたので一人で淋しく、バス通学であきた。重いカバン、きつい規律がいやだ」

もう一つ、二つ。

「幼い時は、物事にわずらわされずただ楽しかったようだ。しかし本当に楽しいのは大学生生活だ」「人生の道を決めた時期であり、親しかった女性と結婚し、楽しい生活ができた」「成長過程に

はいろいろな希望があったけど、後になってからは、これが消滅していた」

次に女子学生

「高校の時は、友だちと先生と親しくできとても楽しい日々を送った。大学では友だちが明るく、みんな心の一致、団結がうまくいった。子どもの時は田舎だったので、平和であった。小学校の時は友だちといたずらしながら楽しく遊んだ。中学の時は、はっきり覚えておらず、平凡な生活だった」「高校は入学試験だけが主で、非人格的教育に反発を感じた」「中学はいい先生と友だちに会えて一番楽しかった」「高校時代には一方で楽しい思い出があるが、入試地獄のため苦勞もした。大学ではいろいろ心理的な葛藤はあるが、それだけ自分の成長を感じることができ、好きだ」「大学で自分を発見し、自分を理性的に愛せることができた。生きるということの重要性と必要性が解り、韓国人としての根性と、歴史を守る意志を与えてくれた。そういう意味で今の私は幸福だ」。逆に「大学で生に対する疑問が生じたため、今が一番悪い」「大学で神様（キリスト教の）を知って、神様に会ったから一番良い」等々。

Ⅳ 学生たちの生きがい

次の質問文で、回答を求めた。

○あなたの生きがいは次のどれですか。順位をつけて下さい。

むろんこの回答の中には、「順位がつけられない。どれも大切」と、全部1位につけている学生などもいたが、それはみな複数回答として1位でまとめてとりあげてある。

1. 日本人学生の場合

(i) 明治大学

図38, 39, 40は明大生が1位にあげているものの集計結果を男女別、キャンパス別、合計で図示したものである⁽¹⁸⁾。

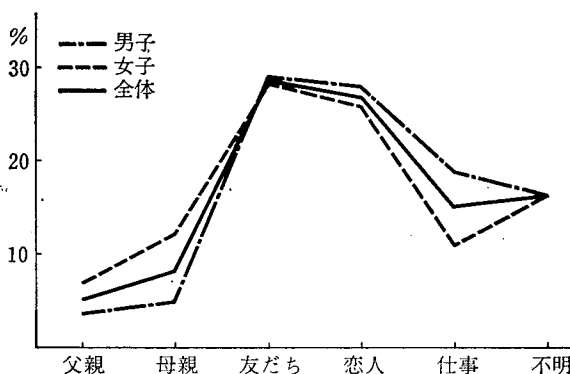


図 38 学生の生きがいの順位 (男女別)

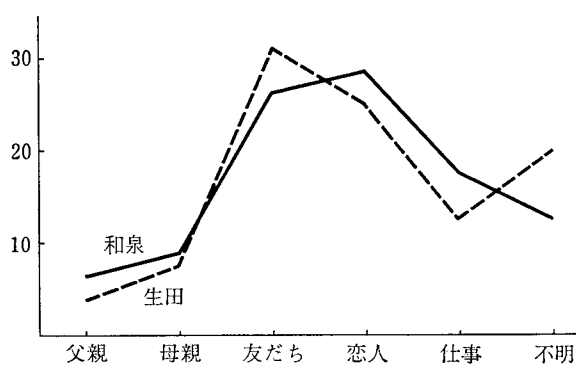


図 39 学生の生きがいの順位 (キャンパス別)

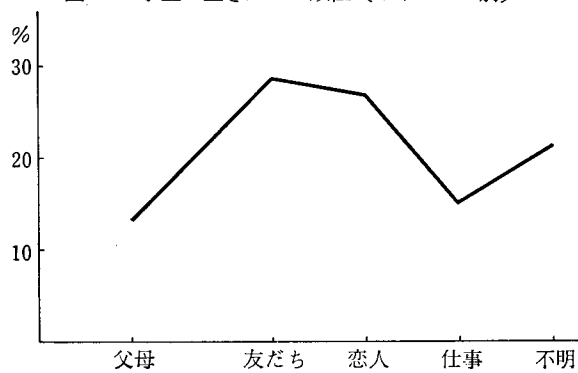


図 40 学生の生きがいの順位 (全体)

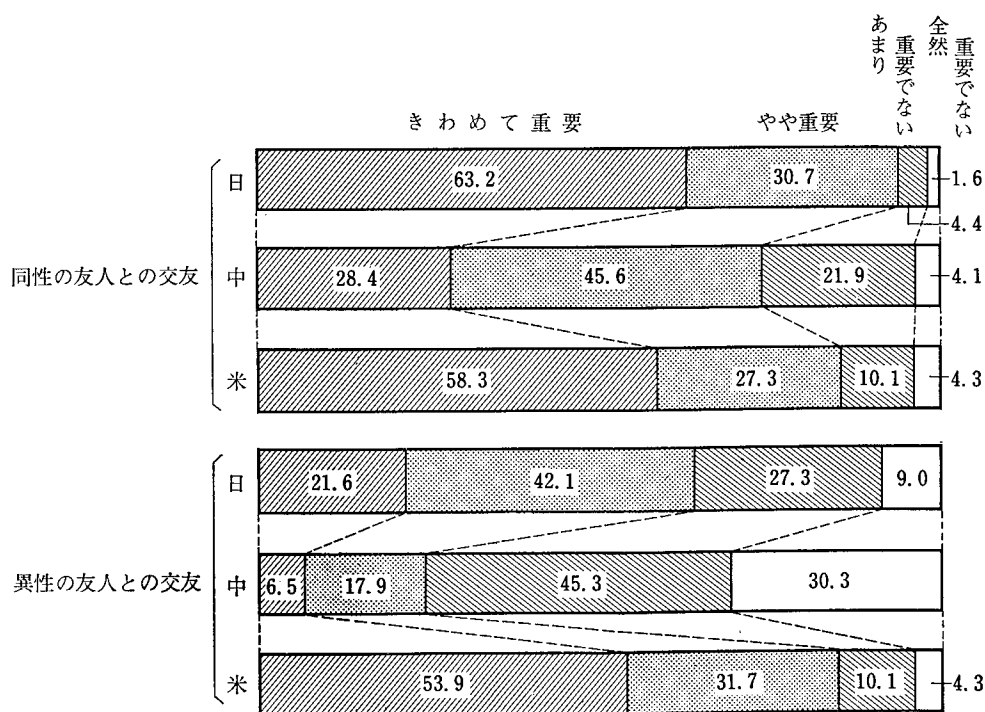


図 41 生活の中での重要事 (1988年)

神田キャンパスの学生が含まれていないのが残念だが、いずれにしても、明大生の現在の生きがいは、友だちと恋人が中心で、その割合はほぼ伯仲している。試みに日本青少年研究所が1988年に日本・米国・中国の中学生に対して実施した、「生活の中での重要事」調査の中から、「同性の友人との交友」と「異性の友人との交友」の項を抜き出したものが、図41である。また図42、43は、総理府が1971年に実施したわが国の青少年の生きがいの年齢的变化の図示である。

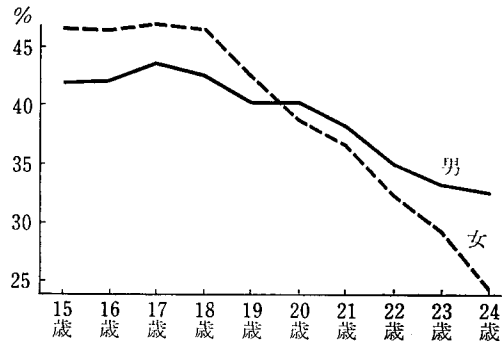


図 42 「友人や仲間」の生きがいの年齢的变化

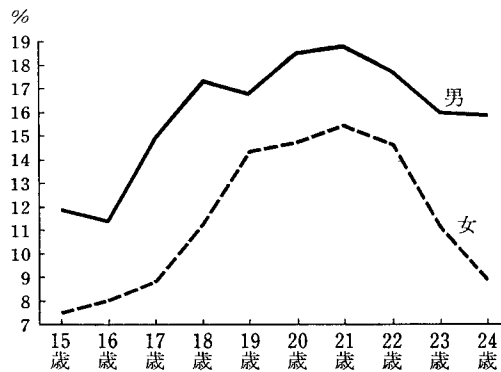


図 43 「異性」の生きがいの年齢的变化

(ロ) 嵯峨美術短期大学生

図44は女子学生の回答結果を図示したものであり⁽¹⁴⁾、表2は男子学生の結果の集計である。

男女学生とも、明大生にくらべて、仕事が生きがいになっているものが多い。むろん同様に友だちも、恋人も重要な心のよりどころだが、短大生ということ、美術系ということが、そういう違った傾向の大きな原因であるように思われる。これは1年生と2年生の違いからも、はっきり読みとれるように思えるのだが……。

表 2 学生の生きがい (男子)

		父 親	母 親	友 だ ち	恋 人	仕事(不明)	計
男 子	1	1	0	1	7	5 (0)	14
	2	1	2	6	2	3 (0)	14
	3	5	4	3	1	2 (0)	15
	4	2	6	0	1	1 (0)	10
	5	4	1	3	1	2 (0)	11
	不明	0	0	0	1	0 (0)	1
計		13	13	13	13	13	65

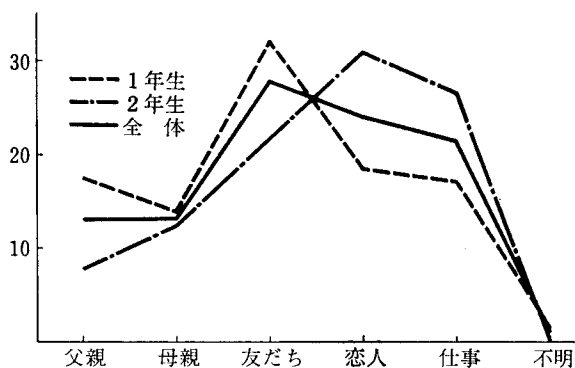


図 44 学生の生きがいの順序 (女子)

(ハ) 日本人学生

図45は、明大生と嵯峨美短大生の集計結果を両親と同胞と仕事にまとめて図示したものである⁽¹⁵⁾。生きがいの半分以上が同胞になり、残りの4割近くを両親と仕事で折半しているという形になっている。

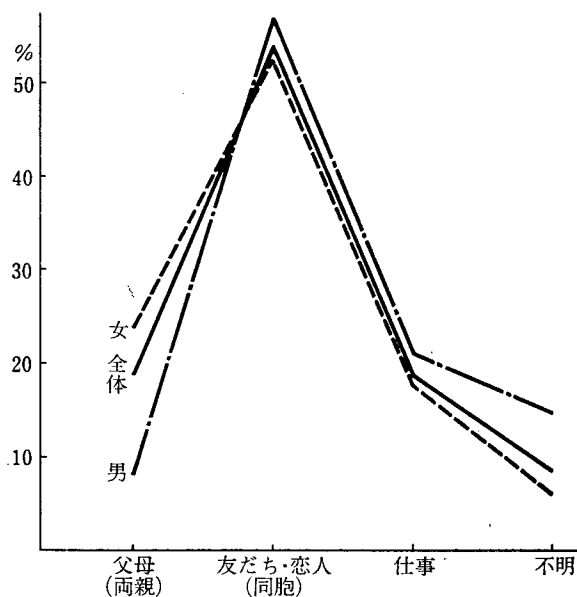


図 45 大学生の生きがい

2. 公州師範大学生の場合

表3は公州師範大生が生きがいとして1位にあげているものを集計したものであり、図46、47は図示したものである。仕事を1位にあげる学生が男女ともに目立ち、その次に両親をあげる学生の多いのが特徴といえるだろう。これは教員養成大学ということを考慮に入れても、日本人学生との大きな違いである。

表 3 公州師範大生の生きがい

		父 親	母 親	友 だ ち	恋 人	仕 事	不 明	計
男子	人 数	8	9	2	7	19	6	51
	%	15.7	17.6	3.9	13.7	37.3	11.8	100
女子	人 数	4	14	4	14	26	8	70
	%	5.7	20.0	5.7	20.0	37.2	11.4	100
計	人 数	12	23	6	21	45	14	121
	%	9.9	19.0	4.9	17.4	37.2	11.6	100

35人
28.9%

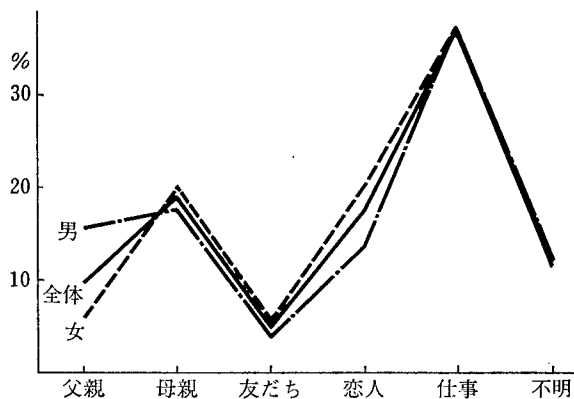


図 46 公州師範大生の生きがい

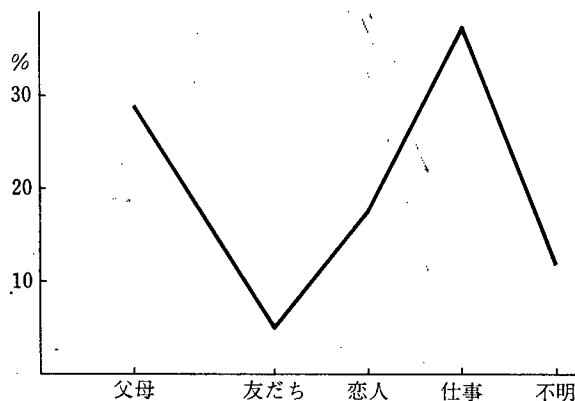


図 47 公州師範大生の生きがい

3. 日・韓学生にみられる違い

図48は日本人学生と公州師範大生の生きがいの1位にあげられたものの比較図であり、図49、50は父親と母親を両親にまとめ、友だちと恋人をまとめたもので比較した図である。極めて対照的になっている。分析は後の機会にゆずりたい。

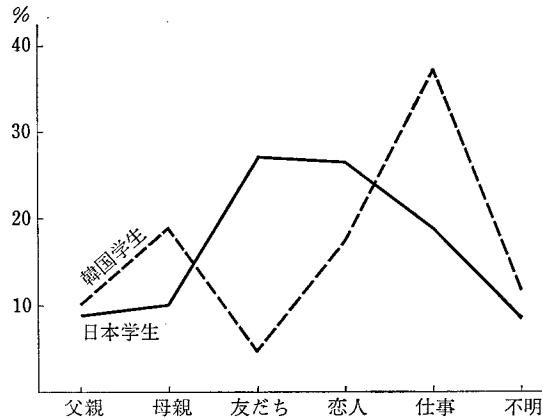


図 48 日・韓学生の生きがい比較

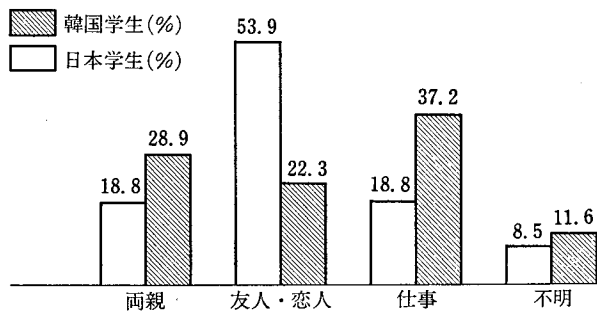


図 49 日・韓学生の生きがい比較

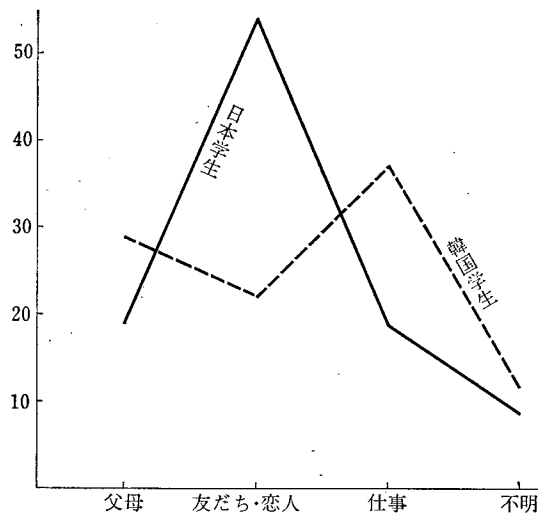


図 50 日・韓学生の生きがい比較

V 日本人学生の日本人観

次の質問で回答を求めた。

○ 日本人はどんな国民だと思いますか（具体的に書いて下さい）。

自由記入方式なので、統計的処理はさけて、典型例を列記することによって、その特徴を示すことにする。

(イ) 明治大学生

文学部女子学生の日本人観は、

「外見を気にし、親切で礼儀正しく、格式ばって法を守り、平凡で細かく一般にかたい（このことばを使っている学生3人）」そして「まじめで（多少気まじめ）はしこく、勤勉であるが視野が狭い」「一般に自信なく自主性に欠けるため同調性が強く、閉鎖的排他的で、全体主義に抵抗できず、恐い面もある」というようにまとめられようか。

一方同学部の男子学生の日本人観も、

「勤勉」「まじめ」「ちょこまか」「せこい」「きちょうめん」「画一的」「同調性」「外見を気にする」「人に左右されやすい」等々。女子学生と同じような表現が認められるが、一層強く「幼稚で未成熟」「働き過ぎで余裕がなく」「なかみのない」「余裕のない」「心の豊かさに欠ける」民族、といった見方が表明されている感を受ける。もっとも「好い奴」「理知的でありながら情にもろい」と同胞に暖い眼を向けている学生もいる。

一方農学部の男子学生では、

「上下関係がはっきりしていて格式ばってかたく、勤勉でまじめに働くが、自己中心的で思いやりに欠け、誇りが高く、利己的身勝手で閉鎖的」で、「島国根性が強くゆうずうがきかず、うらおもてがあり、自主性に欠け同調性が強い」。一方「陽気で」「きっちりとした確実な仕事をし」「頭のよい」「逆境に強い」「好い奴」というように後者の方がかなり少ないが、一層両極性が文学部学生にくらべて目立っている感を強く受ける。

他方女子学生は人数が少ないが、まとめると「ていさいを気にし、神経質でねちねちして人見知りし、同調性が強く、自主性に欠け、心が狭くうらおもてがある」。反面「きっぱり物事を割り切りたがり、義理がたく、時間や約束を守り、きっちりとした仕事をするが、心が狭くやはり economic animal」ということになるうか。

一般的にいえばこのように日本人については、明大生は男女とも悲観的批判的にみている人が多いといえるが、しかし「一番生まれかかった国」ということになると表4、図51のように断然日本ということになっている。特に男子に圧倒的に多く、合計でも6割をこえている。

表 4 一番生まれたかった国

		日 本	米 国	英 国	オーストラリア	スイス	スペイン	カナダ	仏 国	その他	不 明	計
男合 子計	人数	63	5	3	3	1	0	1	0	3	5	84
	%	75.0	5.9	3.6	3.6	1.2	0	1.2	0	3.6	5.9	100
女合 子計	人数	35	2	2	6	5	1	2	3	8	11	75
	%	46.7	2.7	2.7	8.0	6.7	1.3	2.7	4.0	10.6	14.6	100
全合 子計	人数	98	7	5	9	6	1	3	3	11	16	159
	%	61.6	4.4	3.1	5.7	3.8	0.6	1.9	1.9	6.9	10.1	100

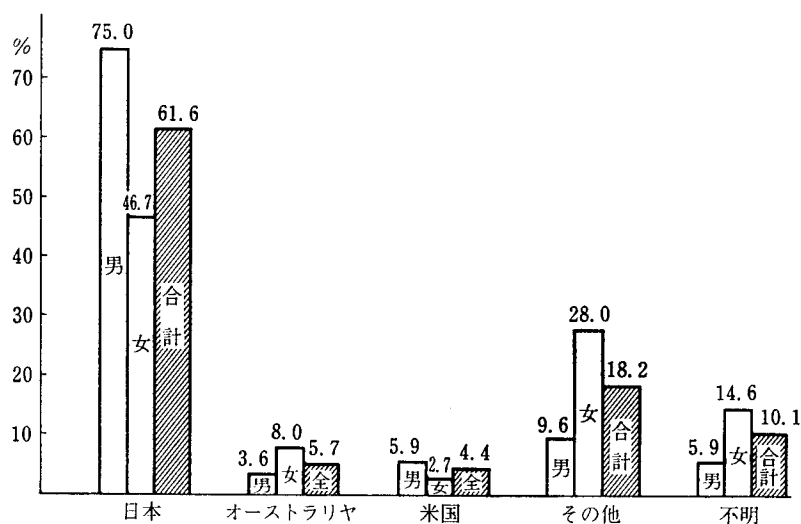


図 51 一番生まれたかった国

(ロ) 嵯峨美術短期大学生

この傾向は、全く嵯峨美短大生でも同じだったといえよう。表5、図52は女子学生のための集計表と、それを図示したものである。

明治大学の男子学生と女子学生の間、嵯峨美短大生が位置しているような形になっている。

表 5 一番生まれたかった国（女子）

	日 本	ア メ リ カ	オ ー ス ト リ ア	フ ラ ン ス	ス イ ス	イ ギ リ ス	カ ナ ダ	ド イ ツ	韓 国	中 国	イ タ リ ア	そ の 他	不 明	計
1年生	39	3	3	3	3	2	1	1	1	1	0	1	3	61
2年生	28	4	3	2	3	4	4	1	0	3	3	4	1	60 (複数回答) 2人
計	67	7	6	5	6	6	5	2	1	4	3	5	4	121
%	55.4	5.8	5.0	4.1	5.0	5.0	4.1	1.7	0.8	3.3	2.5	4.1	3.3	100

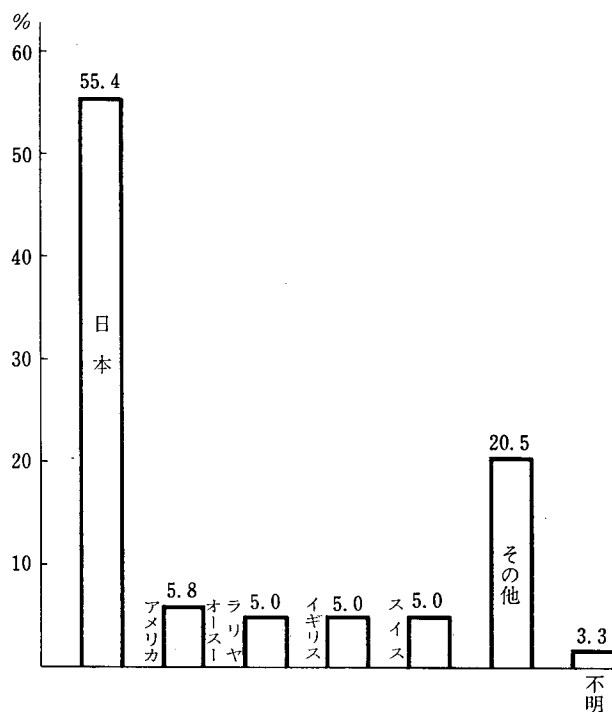


図 52 一番生まれたかった国（女子）

Ⅵ 学生たちの好きな国

次の質問文で回答を求めた。

次の国々についてあなたの好きな順番をつけて下さい。

- () アメリカ合衆国 () ソヴィエト () 中国 () 韓国 () 日本
 () フランス () イギリス () カナダ () スペイン

1. 日本人学生の場合

(イ) 明治大学生と嵯峨美術短大生

表6は学生の1位回答を、表7は9位国をまとめたものである⁽⁶⁶⁾。それを図示したものが図53と図54及び図55である。

また表8、図56は嵯峨美術短大の女子学生の集計表と図示である⁽⁶⁷⁾。

表9、10、図57、58は、日本人男子学生、女子学生及び全学生の合計の集計表と図である。

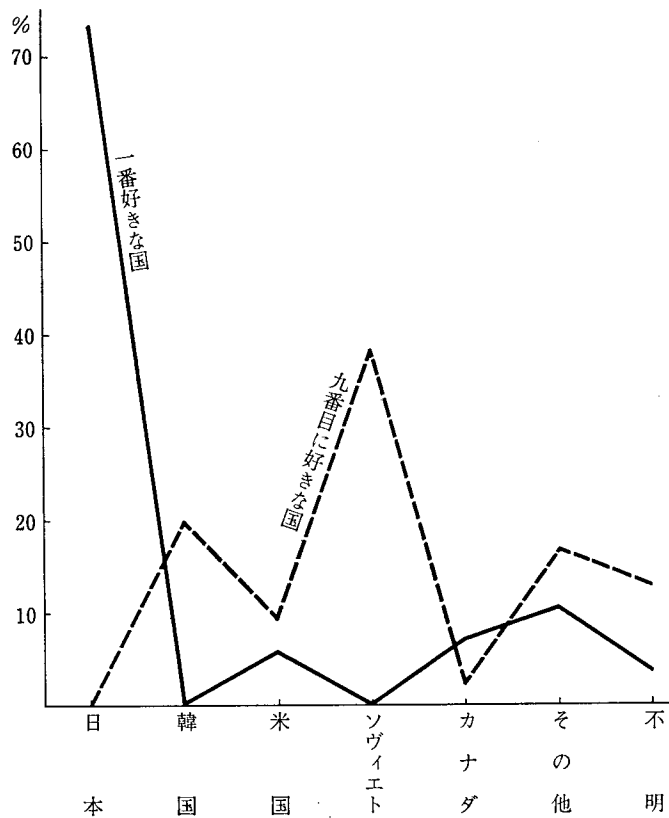


図53 好きな国、好きでない国（明大男子）

表 6 一番好きな国

		日 本	韓 国	米 国	ソヴ ィ エ ト	中 国	英 国	仏 国	カナダ	スベ ィ ン	不 明	計
男 子	和泉男子	25	0	1	0	0	1	1	4	0	0	32
	生田男子	38	0	4	0	2	3	2	2	0	3	54
	計 %	63 73.3	0 0	5 5.8	0 0	2 2.3	4 4.6	3 3.5	6 7.0	0 0	3 3.5	86 100
女 子	和泉女子	30	1	6	1	2	5	3	4	3	3	58
	生田女子	20	0	2	0	1	2	0	0	2	2	29
	計 %	50 57.5	1 1.2	8 9.1	1 1.2	3 3.4	7 8.0	3 3.4	4 4.6	5 5.8	5 5.8	87 100
全 体 %		113 65.3	1 0.6	13 7.5	1 0.6	5 2.9	11 6.4	6 3.5	10 5.7	5 2.9	8 4.6	173 100

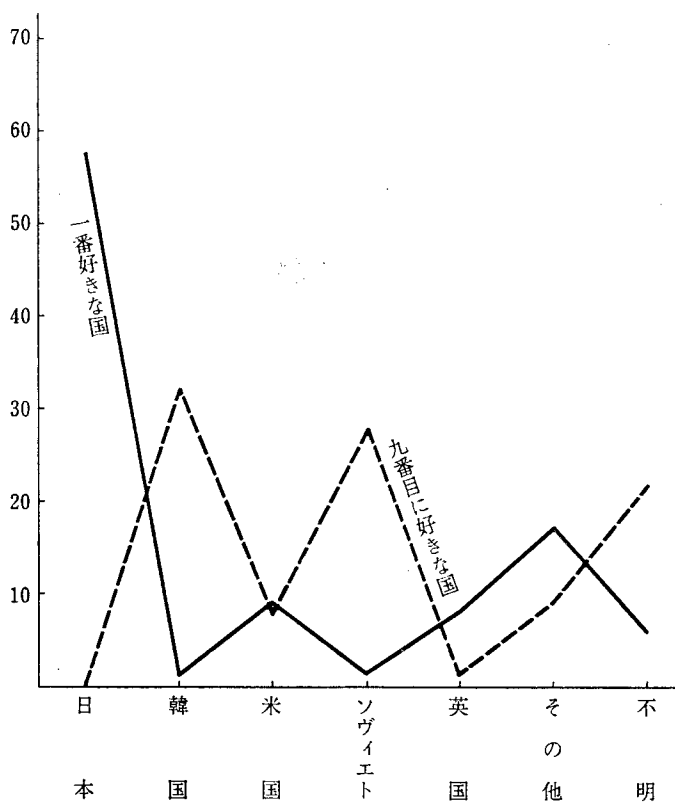


図 54 好きな国, 好きでない国 (明大女子)

表 7 一番好きでない国 (明大)

		日 本	韓 国	米 国	ソヴィエト	中 国	英 国	仏 国	カナダ	スペイン	不 明	計
男 子	和泉男子	0	6	3	14	3	1	0	1	2	0	30
	生田男子	0	11	5	18	1	0	0	1	7	11	54
	計 %	0	17 20.2	8 9.5	32 38.1	4 4.8	1 1.2	0	2 2.4	9 10.7	11 13.1	84 100
女 子	和泉女子	0	15	4	14	1	0	0	0	4	10	48
	生田女子	0	9	2	7	1	1	0	0	1	6	27
	計 %	0	24 32.0	6 8.0	21 28.0	2 2.7	1 1.3	0	0	5 6.7	16 21.3	75 100
全 体		0	41	14	53	6	2	0	2	14	27	159
%		0	25.8	8.8	33.3	3.8	1.25	0	1.25	8.8	17.0	100

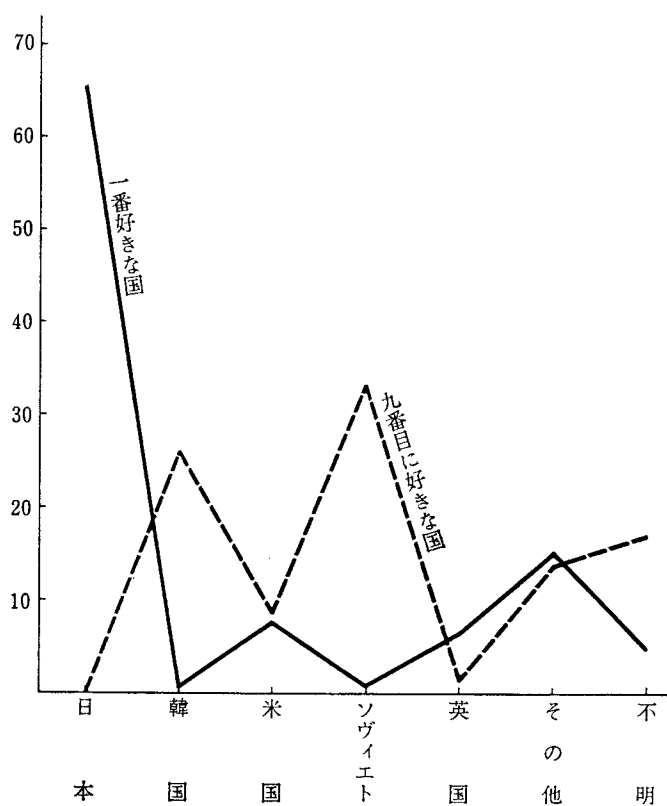


図 55 好きな国, 好きでない国 (全学生)

表 8 好きな国, 好きでない国 (嵯峨美女子)

		日 本	韓 国	米 国	ソヴ ィ エ ト	中 国	英 国	仏 国	カナダ	スベ ィ ン	不 明	計
1 位 国	1 年 生	41	1	3	0	3	2	3	6	2	0	61
	2 年 生	36	0	4	0	4	3	5	5	1	0	58
	計	77	1	7	0	7	5	8	11	3	0	119
	%	64.7	0.8	5.9	0	5.9	4.2	6.7	9.3	2.5	0	100
9 位 国	1 年 生	0	31	3	21	1	0	1	2	0	2	61
	2 年 生	1	22	6	23	0	0	4	1	1	0	58
	計	1	53	9	44	1	0	5	3	1	2	119
	%	0.8	44.6	7.6	37.0	0.8	0	4.2	2.5	0.8	1.7	100

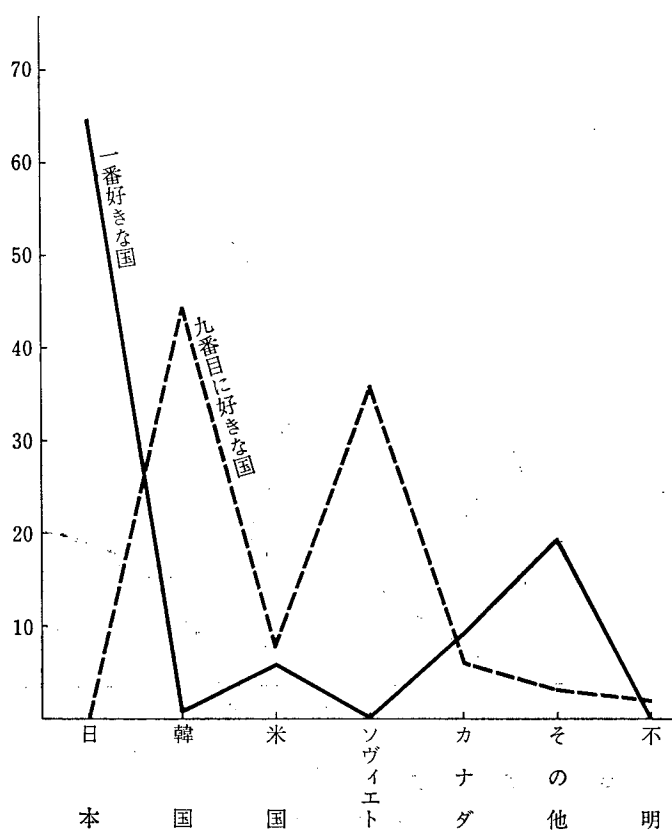


図 56 好きな国, 好きでない国 (嵯峨美)

表 9 日本人学生が一番好きな国

		日 本	韓 国	米 国	ソウ イ エト	中 国	英 国	仏 国	カナダ	スベ イ	不 明	計
男 子	明 大	63	0	5	0	2	4	3	6	0	3	86
	嵯 峨 美	8	0	1	0	1	3	0	0	0	0	13
	計 %	71 71.7	0 0	6 6.1	0 0	3 3.0	7 7.1	3 3.0	6 6.1	0 0	3 3.0	99 100
女 子	明 大	50	1	8	1	3	7	3	4	5	5	87
	嵯 峨 美	77	1	7	0	7	5	8	11	3	0	119
	計 %	127 61.6	2 1.0	15 7.3	1 0.5	10 4.9	12 5.8	11 5.3	15 7.3	8 3.9	5 2.4	206 100
全 学 生		198	2	21	1	13	19	14	21	8	8	305
%		64.9	0.7	6.9	0.3	4.3	6.2	4.6	6.9	2.6	2.6	100

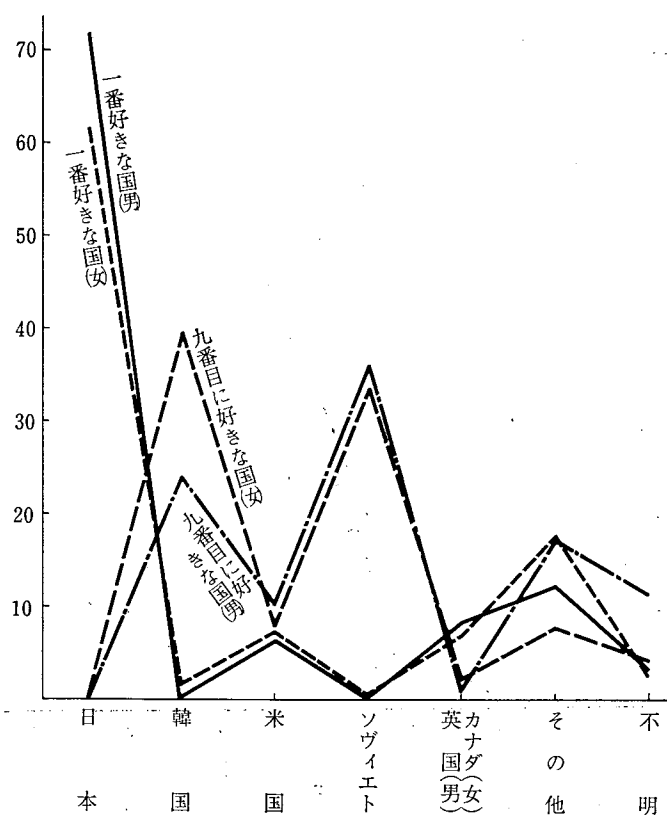


図 57 日本人学生の好きな国、好きでない国の男女比較

表 10 日本人学生が一番好きでない国

		日 本	韓 国	米 国	ソヴィ エト	中 国	英 国	仏 国	カナダ	スベ イ	不 明	計
男 子	明 大 嵯 峨 美	0 0	17 6	8 2	32 3	4 0	1 0	0 0	2 0	9 2	11 0	84 13
	計 %	0 0	23 23.7	10 10.3	35 36.1	4 4.1	1 1.0	0 0	2 2.1	11 11.35	11 11.35	97 100
女 子	明 大 嵯 峨 美	0 1	24 53	6 9	21 44	2 1	1 0	0 5	0 3	5 1	16 2	75 119
	計 %	1 0.5	77 39.7	15 7.7	65 33.5	3 1.55	1 0.5	5 2.6	3 1.55	6 3.1	18 9.3	194 100
合 計 %		1 0.3	100 34.35	25 8.6	100 34.35	7 2.4	2 0.7	5 1.7	5 1.7	17 5.9	29 10.0	291 100

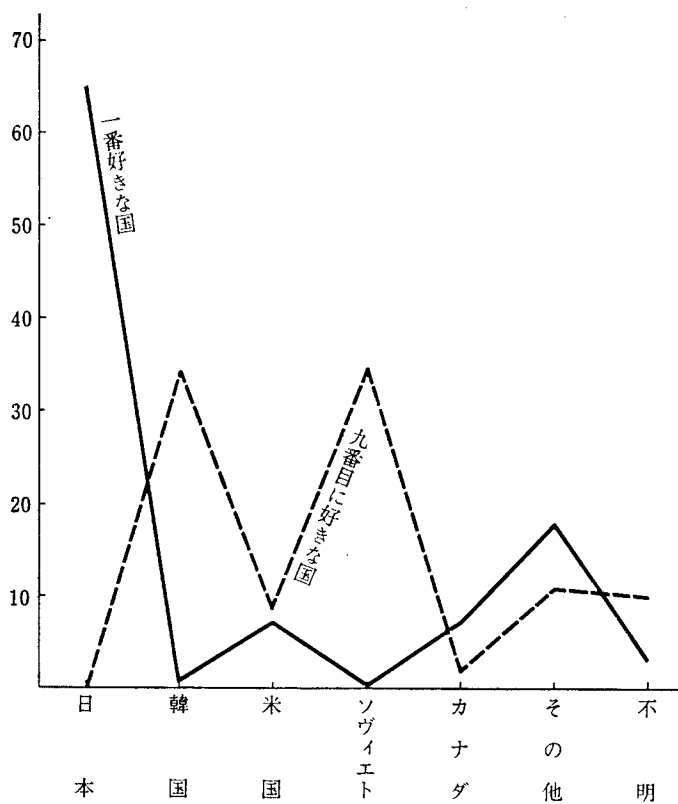


図 58 日本人学生の好きな国, 好きでない国

2. 公州師範大学生の場合

日本学生と同文で回答を求めたが、次の12か国で順番をつけてもらった。

() 韓 国 () アメリカ合衆国 () 台 湾 () 自由中国 () 西ドイツ
 () 東ドイツ () 日 本 () 北朝鮮 () 英 国 () スイス () スペイン
 () ソヴィエト

表11, 12は、1位国と12位国を集計したものであり、図59はそれを図示したものである⁽¹⁸⁾。

表 11 一番好きな国

		韓 国	米 国	スイス	英 国	北朝鮮	スベ イ ン	台 湾	西 独	日 本	不 明	計
男 子	人 数	32	4	3	1	2	1	1	0	1	6	51
	%	62.7	7.8	5.9	2.0	3.9	2.0	2.0	0	2.0	11.8	100.1
女 子	人 数	45	0	13	4	2	0	0	3	0	3	70
	%	64.3	0	18.6	5.7	2.9	0	0	4.3	0	4.3	100.1
計	人 数	77	4	16	5	4	1	1	3	1	9	121
	%	63.6	3.3	13.2	4.1	3.3	0.8	0.8	2.5	0.8	7.5	99.9

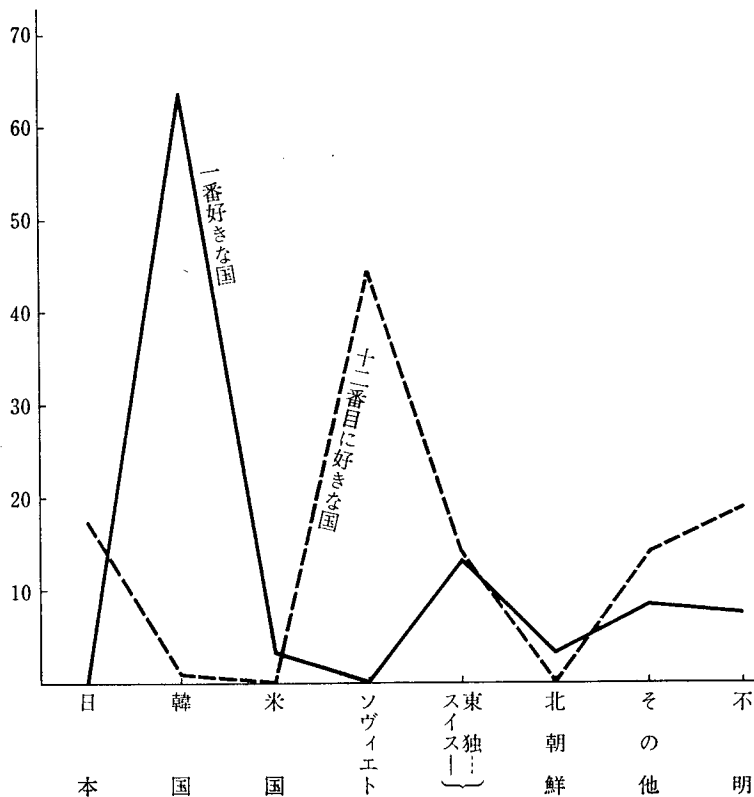


図 59 一番好きな国と好きでない国

表 12 12番目に好きな国

		ソヴィエト	日 本	東 独	台 湾	韓 国	自由中国	不 明	計
男子	人 数	25	12	4	1	1	0	8	51
	%	49.1	23.5	7.8	2.0	2.0	0	15.6	100
女子	人 数	29	9	7	8	0	2	15	70
	%	41.4	12.9	10.0	11.4	0	2.9	21.4	100
計	人 数	54	21	11	9	1	2	23	121
	%	44.6	17.3	9.1	7.5	0.8	1.7	19.0	100

3. 両国大学生の比較

図60, 61, 62にみられるように両国大学生とも、自国を一番好きな国に選んでいる学生が最も多

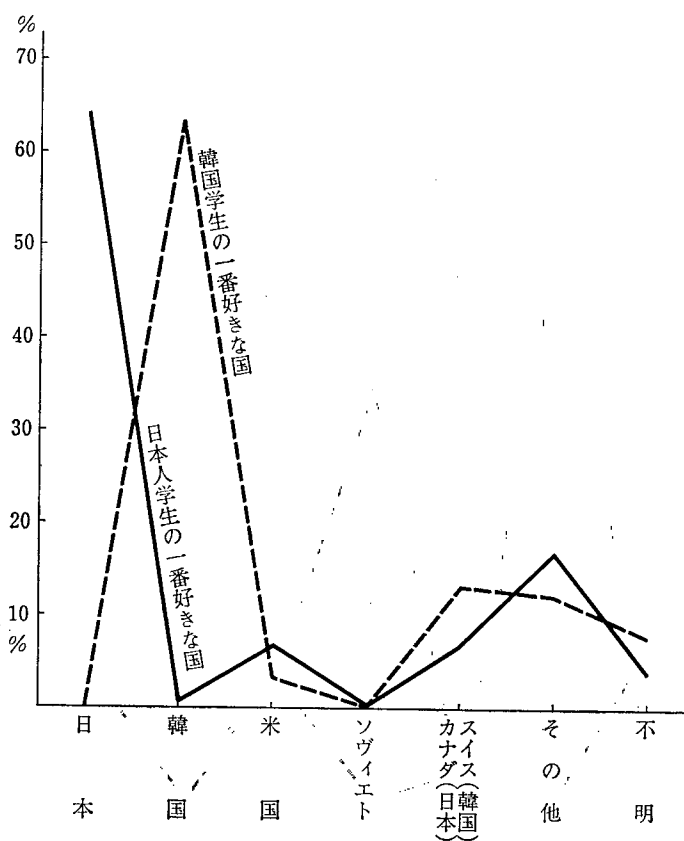


図 60 日・韓学生が一番好きな国

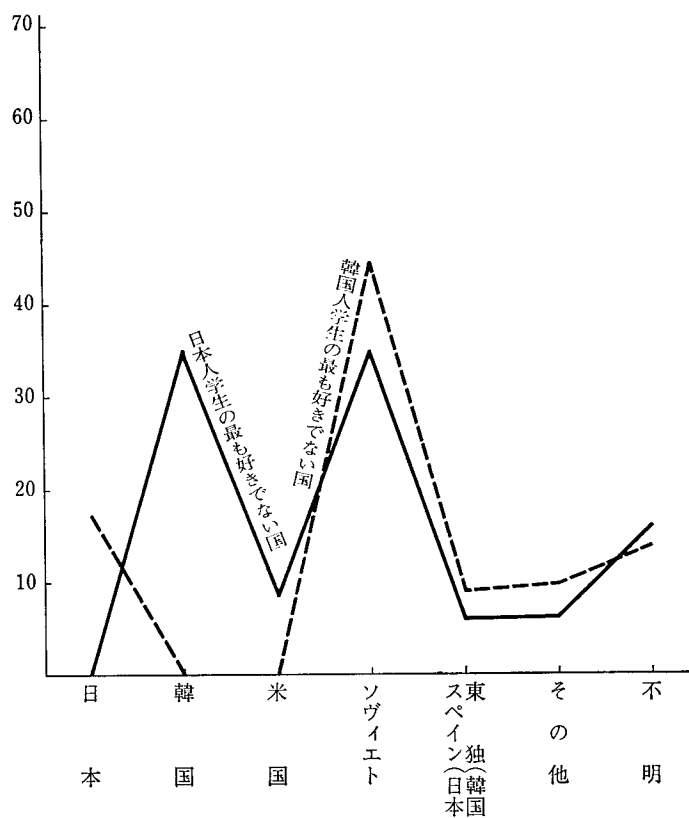


図 61 日・韓学生の一発好きでない国

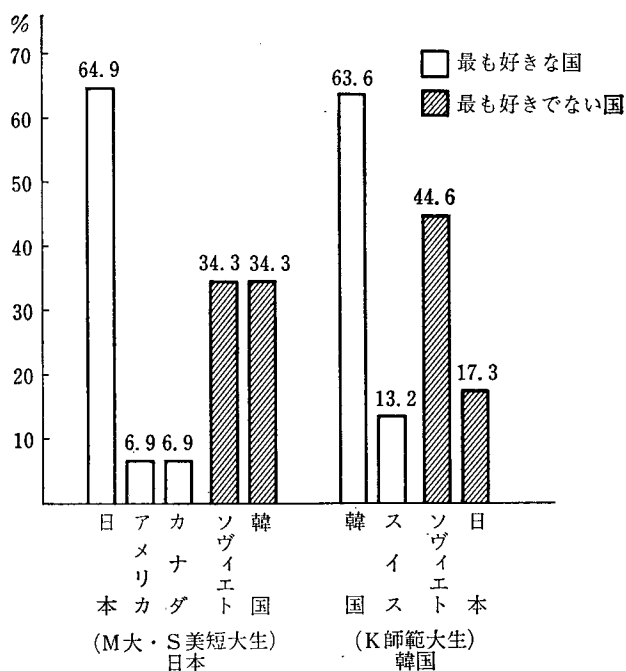


図 62 最も好きな国, 好きでない国 (2位まで)

く、総数ではちょうど同じくらいの6割5分近くの学生がそうであった。2位は日本はカナダ、韓国はスイスになっている。日本の場合生まれたかった国の2位にオーストラリアがなっているので、オーストラリアを入れなかったのは、最近の若者について認識不足、残念だったと思う。日本の学生に、カナダ、オーストラリアが好かれ、韓国人学生にスイスが好かれるのも、解るような気がする。また日本の学生に男子に日本が好きな学生が多く、女子には多少少ない傾向があるのに対し、韓国学生ではその差はみられなかった。

一番好きでない国では、日本人学生では隣国韓国が、ついでソヴィエトの順になっており、特に女子学生にこの傾向が大で、男子学生では順序は逆になっている。韓国人学生ではソヴィエトが1位、次いで日本になっている。日本と韓国は、最も近い隣国である。両国の間には不幸な歴史があった。今後この関係を変えていくことが急務であることは、誰の眼にも明らかである。この点でも教科書が大きな役割を果たすことは論を待たないところであり、テレビや新聞の報道もこの観点から総点検される必要がこの調査結果からも強く示唆されている。

〔注〕

(1) 294人の学生のうちわけをやや詳しく表にすれば次のようであった。

性別	年齢	19 歳	20 歳	21 歳	22 歳	23 歳	24 歳	計
	キャンパス							
男子学生	和泉キャンパス	11	25	32	2	0	0	70
	神田キャンパス	3	15	23	4	2	3	50
	生田キャンパス	10	18	23	2	1	1	55
	計	24	58	78	8	3	4	175
女子学生	和泉キャンパス	10	26	23	0	0	0	59
	神田キャンパス	3	9	23	2	0	0	37
	生田キャンパス	6	9	6	2	0	0	23
	計	19	44	52	4	0	0	119
男 女 合 計		43	102	130	12	3	4	294
%		14.6	34.7	44.2	4.1	1.0	1.4	100

(2) 表 a 明大男子のキャンパス別集計表

キャンパス	得点	0	1	2	3	4	5	6	計
和 泉		7	10	12	18	9	11	3	70
%		10.0	14.3	17.1	25.7	12.9	15.7	4.3	100
神 田		3	6	8	13	10	9	1	50
%		6.0	12.0	16.0	26.0	20.0	18.0	2.0	100
生 田		4	7	15	11	10	4	4	55
%		7.3	12.7	27.3	20.0	18.2	7.3	7.3	100
計		14	23	35	42	29	24	8	175
%		8.0	13.1	20.0	24.0	16.6	13.7	4.6	100

表 b 明大女子のキャンパス別集計表

キャンパス \ 得点	0	1	2	3	4	5	6	計
和 泉	6	7	10	10	13	7	6	59
%	10.2	11.9	16.9	16.9	22.0	11.9	10.2	100
神 田	2	2	5	7	13	5	3	37
%	5.4	5.4	13.5	18.9	35.1	13.5	8.1	100
生 田	1	2	4	4	8	3	1	23
%	4.3	8.6	17.4	17.4	34.8	13.0	4.3	100
計	9	11	19	21	34	15	10	119
%	7.6	9.2	16.0	17.6	28.6	12.6	8.4	100

表 c 明大キャンパス別集計表

キャンパス \ 得点	0	1	2	3	4	5	6	計
和 泉	13	17	22	28	22	18	9	129
%	10.1	13.2	17.0	21.7	17.0	14.0	7.0	100
神 田	5	8	13	20	23	14	4	87
%	5.8	9.2	14.9	23.0	26.4	16.1	4.6	100
生 田	5	9	19	15	18	7	5	78
%	6.4	11.5	24.4	19.2	23.1	9.0	6.4	100
計	23	34	54	63	63	39	18	294
%	7.8	11.6	18.4	21.4	21.4	13.3	6.1	100

(3) 嵯峨美術短大女子学生の集計表

学年 \ 得点	0	1	2	3	4	5	6	計
1 年生	4	8	12	9	14	10	6	63
%	6.3	12.7	19.1	14.3	22.2	15.9	9.5	100
2 年生	5	6	11	13	13	4	6	58
%	8.6	10.35	19.0	22.4	22.4	6.9	10.35	100
全 体	9	14	23	22	27	14	12	121
%	7.5	11.6	19.0	18.1	22.3	11.6	9.9	100

(4) 表 a 嵯峨美短大生と明治大学生の男女合計集計表

学年 \ 得点	0	1	2	3	4	5	6	計
明 大(女)	9	11	19	21	34	15	10	119
嵯峨美(女)	9	14	23	22	27	14	12	121
女子計	18	25	42	43	61	29	22	240
%	7.5	10.4	17.5	17.9	25.4	12.1	9.2	100
明 大(男)	14	23	35	42	29	24	8	175
嵯峨美(男)	1	5	2	0	4	0	1	13
男子計	15	28	37	35	33	33	9	188
%	8.0	14.8	19.7	22.3	17.6	12.8	4.8	100

表 b 嵯峨美術短大生と明大生の合計表

得点	0	1	2	3	4	5	6	計
明治, 嵯峨 男子 計	15	28	37	42	33	24	9	188
明治, 嵯峨 女子 計	18	25	42	43	61	29	22	240
合 計	33	53	79	85	94	53	31	428
%	7.7	12.4	18.5	19.9	22.0	12.3	7.2	100

表 c 嵯峨美術短大2年生と明大2年生の集計表

得点		0	1	2	3	4	5	6	計
女子学生	明大 2年生	9	11	19	21	34	15	10	119
	嵯峨美 2年生	5	6	11	13	13	4	6	58
	合 計	14	17	30	34	47	19	16	177
	%	7.9	9.6	17.0	19.2	26.6	10.7	9.0	100
男子学生	明大 2年生	14	23	35	42	29	24	8	175
	嵯峨美 2年生	1	2	1	0	2	0	0	6
	計	15	25	36	42	31	24	8	181
	%	8.3	13.8	19.9	23.2	17.1	13.3	4.4	100
全体	人 数	29	42	66	76	78	43	24	358
	%	8.1	11.7	18.5	21.2	21.8	12.0	6.7	100

(5) 公州師範大学生の年齢別集計表

性別 \ 年齢	19歳	20	21	22	23	24	25	26	27	28	不明	計
男 子	2	2	5	12	11	5	4	5	2	1	3	52
女 子	0	6	16	23	15	0	0	0	0	0	2	62
計	2	8	21	35	26	5	4	5	2	1	5	114

(6) 公州師範大学生の集計表

得点	0	1	2	3	4	5	6	計
男	10	19	16	6	0	1	0	52
	19.2	36.5	30.8	11.5	0	1.9	0	100
女	12	14	17	5	12	1	1	62
	19.4	22.6	27.4	8.1	19.4	1.6	1.6	100
計	22	33	33	11	12	2	1	114
%	19.3	28.9	28.9	9.6	10.5	1.8	0.9	100

(7) ゲーテ大学生

a 男子学生の集計

年齢 \ 得点	0	1	2	3	4	5	6	計
19 歳	0	1	1	0	0	0	0	2
20 歳	0	5	2	2	1	0	1	11
21 歳	3	6	3	2	0	0	0	14
22 歳	2	5	2	1	1	0	0	11
23 歳	3	5	1	1	0	0	1	11
24 歳	3	2	1	0	0	0	0	6
25 歳	3	5	2	0	1	0	0	11
計	14	29	12	6	3	0	2	66
%	21.2	43.9	18.2	9.1	4.6	0	3.0	100

b 女子学生の集計

年齢 \ 得点	0	1	2	3	4	5	6	計
19 歳	0	4	1	1	0	0	0	6
20 歳	1	2	4	2	2	0	0	11
21 歳	2	1	0	0	1	1	0	5
22 歳	4	4	2	1	0	0	0	11
23 歳	0	3	1	0	0	0	0	4
24 歳	0	0	1	1	1	1	0	4
25 歳	0	0	1	2	3	0	0	6
26 歳	5	4	2	2	0	0	0	13
計	11	18	12	9	7	2	0	60
%	20	30	20	15	11.7	3.7	0	100

c 男女学生合計

年齢 \ 得点	0	1	2	3	4	5	6	計
男 子	14	29	12	6	3	0	2	66
女 子	12	18	12	9	7	2	0	60
計	26	47	24	15	10	2	2	126
%	20.6	37.3	19.1	11.9	7.9	1.6	1.6	100

(8) a 楽しかった、いやだった学校(和泉)

				幼稚園	小学校	中学校	高校	大学	不明	計
男子学生	楽しかった	1位	人数 %	1 3.33	2 6.66	6 20.00	14 46.66	5 16.66	2 6.66	30
		2位	人数	2	5	5	5	10	3	30
	いやだった	1位	人数 %	5 16.66	9 20.00	5 16.66	6 20.00	3 10.00	5 16.66	30
		2位	人数	11	4	5	2	2	5	30
女子学生	楽しかった	1位	人数 %	2 4.16	3 6.25	4 8.33	19 39.58	16 33.33	4 8.33	48
		2位	人数	2	8	7	14	12	5	48
	いやだった	1位	人数 %	7 14.58	10 20.83	11 22.91	6 12.50	6 12.50	8 16.66	48
		2位	人数	18	7	9	1	2	11	48
男女総計	楽しかった	1位	人数 %	3 3.84	5 6.41	10 12.82	33 42.30	21 26.92	6 7.69	78
	いやだった	2位	人数 %	12 15.38	16 20.51	16 20.51	12 15.38	9 11.53	13 16.66	78

b 楽しかった、いやだった学校(生田)

				幼稚園	小学校	中学校	高校	大学	不明	計
男子学生	楽しかった	1位	人数 %	0 0	3 5.55	11 20.37	21 38.88	14 25.74	5 9.25	54
		2位	人数	0	6	11	14	17	6	54
	いやだった	1位	人数 %	7 12.96	11 20.37	10 18.44	4 7.40	5 9.25	17 31.48	54
		2位	人数	10	7	10	7	3	17	54
女子学生	楽しかった	1位	人数 %	1 3.70	3 11.11	3 11.11	11 40.74	7 25.92	2 7.40	27
		2位	人数	3	4	2	7	8	3	27
	いやだった	1位	人数 %	2 7.40	7 25.92	10 37.03	4 14.81	2 7.40	2 7.40	27
		2位	人数	9	5	6	1	3	3	27
男女総計	楽しかった	1位	人数 %	1 1.23	6 7.40	14 17.28	32 39.50	21 25.92	7 8.64	81
	いやだった	2位	人数 %	9 11.11	18 22.22	20 24.69	8 9.87	7 8.64	19 23.45	81

c 楽しかった、いやだった学校（和泉生田集計）

				幼稚園	小学校	中学校	高校	大学	不明	計
男子学生	楽しかった	1位	人数 %	1 1.19	5 5.95	17 20.23	35 41.66	19 22.61	7 8.33	64
		2位	人数	2	11	16	19	27	9	84
	いやだった	1位	人数 %	12 14.28	17 20.23	15 17.85	10 11.90	8 9.52	22 26.19	84
		2位	人数	22	11	15	9	5	22	84
女子学生	楽しかった	1位	人数 %	3 4.00	6 8.00	7 9.33	30 40.00	23 30.66	6 8.00	75
		2位	人数	5	12	9	21	20	8	75
	いやだった	1位	人数 %	9 12.00	17 22.66	21 28.00	10 13.33	8 10.66	10 13.33	
		2位	人数	27	12	15	2	5	14	75
男女総計	楽しかった	1位	人数 %	4 2.51	11 6.91	24 15.07	65 40.88	42 26.41	13 8.17	159
		2位	人数	7	23	25	40	47	17	159
	いやだった	1位	人数 %	21 13.20	34 21.38	36 22.64	20 12.57	16 10.06	32 20.12	159
		2位	人数	49	23	30	11	10	36	159

(9) 嵯峨美術短大生（女子）

a 一番楽しかった学校

楽しかった		幼	小	中	高	大	不	計
1年生	人数	4	8	7	21	21	0	61
	%	6.6	13.1	11.5	34.3	34.3	0	100
2年生	人数	5	6	3	21	23	0	58
	%	8.6	10.3	5.2	36.2	39.7	0	100
計	人数	9	14	10	42	44	0	119
	%	7.5	11.8	8.4	35.3	37.0	0	100

b 一番嫌だった学校

嫌だった		幼	小	中	高	大	不	計
1年生	人数	6	18	27	7	3	0	61
	%	9.8	29.7	44.3	11.5	4.7	0	100
2年生	人数	9	14	23	7	5	0	58
	%	15.5	24.1	39.7	12.1	8.6	0	100
計	人数	15	32	50	14	8	0	119
	%	12.6	26.9	42.0	11.8	6.7	0	100

(10) 嵯峨美術短大生（男子）

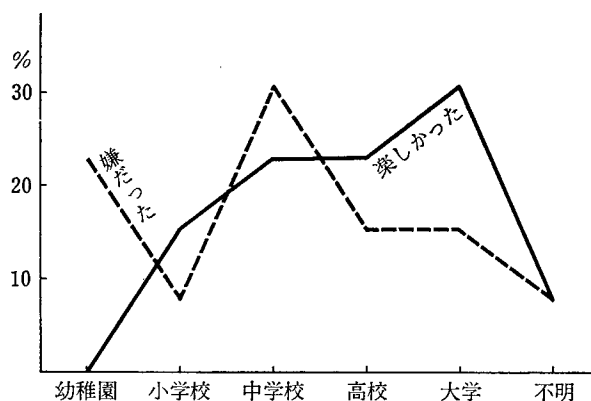


図 楽しかった学校, 嫌だった学校 (男子学生)

(11) 日本人学生

a 嫌だった学校

嫌だった		幼稚園	小学校	中学校	高校	大学	不明	計
男子学生	明大男子	12	17	15	10	8	22	84
	嵯峨男子	3	1	4	2	2	1	13
	計	15	18	19	12	10	23	97
		15.5	18.5	19.6	12.4	10.3	23.7	100
女子学生	明大女子	9	17	21	10	8	10	75
	嵯峨女子	15	32	50	14	8	0	119
	計	24	49	71	24	16	10	194
		12.4	25.2	36.6	12.4	8.2	5.2	100
全 学 生		39	67	90	36	26	33	291
%		13.4	23.0	30.9	12.4	9.0	11.3	100

b 楽しかった学校

楽しかった		幼稚園	小学校	中学校	高校	大学	不明	計
男子学生	明大男子	1	5	17	35	19	7	84
	嵯峨男子	0	2	3	3	4	1	13
	計	1	7	20	38	23	8	97
		1.0	7.2	20.6	39.2	23.7	8.2	99.9
女子学生	明大女子	3	6	7	30	23	6	75
	嵯峨女子	9	14	10	42	44	0	119
	計	12	20	17	72	67	6	194
		6.2	10.3	8.8	37.1	34.5	3.1	100
全 学 生		13	27	37	110	90	14	291
%		4.5	9.3	12.7	37.8	30.9	4.8	100

(12) 公州師範大学生の一番楽しかった学校、嫌だった学校

			幼稚園	国民学校	中学校	高等学校	大 学	不 明	計
楽しかった	男学 子生	人 数 %	3 5.9	12 23.5	7 13.7	12 23.5	11 21.6	6 11.8	51 100
	女学 子生	人 数 %	5 7.15	14 20.0	14 20.0	18 25.7	14 20.0	5 7.15	70 100
嫌だった	男学 子生	人 数 %	5 9.8	9 17.7	5 9.8	12 23.5	5 9.8	15 29.4	51 100
	女学 子生	人 数 %	8 11.4	5 7.1	7 10.0	17 24.3	13 18.6	20 28.6	70 100
男女 合計	楽し った か	人 数 %	8 6.6	26 21.5	21 17.3	30 24.8	25 20.7	11 9.1	121 100
	いっ つた だ	人 数 %	13 10.7	14 11.6	12 9.9	29 24.0	18 14.9	35 28.9	121 100

(13) 明大生の生きがい1位にあげられた対象の集計表

a 男女別

性 別	対 象	父 親	母 親	友 だ ち	恋 人	仕 事	不 明	計
男学 子生	和 泉 生 田	1 2	2 2	8 17	9 15	8 8	4 10	32 54
	人 数 %	3 3.5	4 4.6	25 29.1	24 27.9	16 18.6	14 16.3	86 100
女学 子生	和 泉 生 田	4 1	5 4	13 8	14 5	6 2	6 6	48 26
	人 数 %	5 6.7	9 12.2	22 28.4	19 25.7	8 10.8	12 16.2	74 100
男女 計	人 数 %	8 5.0	13 8.1	46 28.7	43 26.9	24 15.0	26 16.3	160 100
		13.1						

b キャンパス別

キャン パス	対 象	父 親	母 親	友 だ ち	恋 人	仕 事	不 明	計
和 泉 %		5 6.25	7 8.75	21 26.25	23 28.75	14 17.50	10 12.50	80 100
	生 田 %	3 3.75	6 7.5	25 31.25	20 25.00	10 12.50	16 20.00	80 100

(14) 嵯峨美術短期大学生(女子)の生きがい1位集計

		1	2	3	4	5	不 明	計
父 親	1 年 生	14	4	13	10	16	4	61
	2 年 生	5	11	8	14	19	1	58
	計	19	15	21	24	35	5	119
母 親	1 年 生	11	18	8	17	3	4	61
	2 年 生	8	12	15	18	3	2	58
	計	19	30	23	35	6	6	119
友 だ ち	1 年 生	26	10	11	7	6	1	61
	2 年 生	14	19	12	9	3	1	58
	計	40	29	23	16	9	2	119
恋 人	1 年 生	15	12	6	13	7	8	61
	2 年 生	20	13	9	6	10	0	58
	計	35	25	15	19	17	8	119
仕 事	1 年 生	14	8	16	6	11	6	61
	2 年 生	17	10	10	7	13	1	58
	計	31	18	26	13	24	7	119
学 年 対 象		父 親	母 親	友 だ ち	恋 人	仕 事	不 明	計
1 年 生		14	11	26	15	14	1	81
%		17.3	13.6	32.1	18.5	17.3	1.2	100
2 年 生		5	8	14	20	17	0	64
%		7.8	12.5	21.9	31.2	26.6	0	100
		20.3						
合 計		19	19	40	35	31	1	145
%		13.1	13.1	27.6	24.1	21.4	0.7	100

(15) 日本人学生の生きがい1位集計

		父 親	母 親	友 だ ち	恋 人	仕 事	不 明	計
男 子 学 生	明大男子	3	4	25	24	16	14	86
	嵯峨男子	1	0	1	7	5	0	14
	計	4	4	26	31	21	14	100
	%	4	4	26	31	21	14	100
		8		57				
女 子 学 生	明大女子	5	9	21	19	8	12	74
	嵯峨女子	19	19	40	35	31	1	145
	計	24	28	61	54	39	13	219
	%	11.0	12.7	27.9	24.7	17.8	5.9	100
		23.7		52.6				
全 学 生		28	32	87	85	60	27	319
%		8.8	10.0	27.3	26.6	18.8	8.5	100
		18.8		53.9				

(16) 明大生の集計表

a 和泉キャンパス

対象国	順位 性別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	計
	男 子	女 子											
日 本	男 子	女 子	25	1	0	0	3	0	1	0	0	0	30
			30	6	4	2	1	2	0	0	0	3	48
	計		55	7	4	2	4	2	1	0	0	3	78
韓 国	男 子	女 子	0	0	0	4	1	1	9	9	6	0	30
			1	0	1	0	2	0	8	13	15	8	48
	計		1	0	1	4	3	1	17	22	21	8	78
ア メ リ カ	男 子	女 子	1	9	5	4	2	2	0	4	3	0	30
			6	11	2	7	3	3	2	4	4	6	48
	計		7	20	7	11	5	5	2	8	7	6	78
ソ ヴ イ エ ト	男 子	女 子	0	1	0	3	0	3	5	4	14	0	30
			1	0	1	3	3	2	6	10	14	8	48
	計		1	1	1	6	3	5	11	24	28	8	78
フ ラ ン ス	男 子	女 子	1	3	4	4	7	8	2	1	0	0	30
			3	5	3	6	11	9	4	0	0	7	48
	計		4	8	7	10	18	17	6	1	0	7	78
イ ギ リ ス	男 子	女 子	1	10	6	8	1	2	1	0	1	0	30
			5	5	11	5	9	6	1	0	0	6	48
	計		6	15	17	13	10	8	2	0	1	6	78
中 国	男 子	女 子	0	3	7	2	2	7	4	2	3	0	30
			2	5	4	2	6	5	11	6	1	6	48
	計		2	8	11	4	8	12	15	8	4	6	78
カ ナ ダ	男 子	女 子	4	3	8	3	6	1	1	3	1	0	30
			4	8	10	10	4	3	0	4	0	5	48
	計		8	11	18	13	10	4	1	7	1	5	78
ス ペ イ ン	男 子	女 子	0	1	1	3	6	5	4	8	2	0	30
			3	2	4	6	2	11	6	4	4	6	48
	計		3	3	5	9	8	16	10	12	6	6	78

b 生田キャンパス

対象国	順位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	計
	性別												
日本	男子	子	38	6	1	2	3	1	0	0	0	3	54
	女子	子	20	1	0	1	0	0	2	0	0	3	27
	計		58	7	1	3	3	1	2	0	0	6	81
韓国	男子	子	0	1	0	3	1	7	11	14	11	6	54
	女子	子	0	1	1	2	0	1	2	8	9	3	27
	計		0	2	1	5	1	8	13	22	20	10	81
米国	男子	子	4	17	8	2	4	5	2	2	5	5	54
	女子	子	2	5	4	2	5	1	2	1	2	3	27
	計		6	22	12	4	9	6	4	3	7	8	81
ソウェ イ エ ト	男子	子	0	1	1	5	2	3	7	10	18	7	14
	女子	子	0	2	0	0	1	6	4	5	7	2	27
	計		0	3	1	5	3	9	11	15	25	9	81
フランス	男子	子	2	3	11	7	10	10	3	0	0	8	54
	女子	子	0	5	2	4	7	3	3	0	0	3	27
	計		2	8	13	11	17	13	6	0	0	11	81
イギリス	男子	子	3	7	13	10	5	2	6	3	0	5	54
	女子	子	2	5	3	8	1	0	2	2	1	3	27
	計		5	12	16	18	6	2	8	5	1	8	81
中国	男子	子	2	4	10	4	5	4	11	9	1	4	54
	女子	子	1	2	3	1	2	5	6	3	1	3	27
	計		3	6	13	5	7	9	17	12	2	7	81
カナダ	男子	子	2	11	8	14	8	4	1	1	1	4	54
	女子	子	0	11	8	3	1	1	0	0	0	3	27
	計		2	22	16	17	9	5	1	1	1	7	81
スペイン	男子	子	0	3	3	2	8	11	7	6	7	7	54
	女子	子	2	2	2	2	4	6	1	4	1	3	27
	計		2	5	5	4	12	17	8	10	8	10	81

(17) 嵯峨美術短大生の集計表

a 女子学生

国名	学年	順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	計
日本	1年生		41	5	6	4	2	1	0	2	0	0	61
	2年生		36	3	10	2	4	2	0	0	1	0	58
	計		77	8	16	6	6	3	0	2	1	0	119
韓国	1年生		1	0	0	1	0	6	7	13	31	2	61
	2年生		0	1	0	1	3	3	8	20	22	0	58
	計		1	1	0	2	3	9	15	33	53	2	119
アメリカ	1年生		3	13	4	10	10	10	3	3	3	2	61
	2年生		4	10	6	8	11	7	3	3	6	0	58
	計		7	23	10	18	21	17	6	6	9	2	119
ソヴィエト	1年生		0	0	1	1	2	4	15	16	21	1	61
	2年生		0	0	3	2	0	6	9	15	23	0	58
	計		0	0	4	3	2	10	24	31	44	1	119
フランス	1年生		3	13	11	11	8	5	4	3	1	2	61
	2年生		5	11	9	4	11	5	6	3	4	0	58
	計		8	24	20	15	19	10	10	6	5	2	119
イギリス	1年生		2	8	11	9	14	6	6	3	0	2	61
	2年生		3	11	10	16	6	7	4	1	0	0	58
	計		5	19	21	25	20	13	10	4	0	2	119
中国	1年生		3	8	8	1	8	12	8	12	1	0	61
	2年生		4	6	3	5	8	5	16	11	0	0	58
	計		7	14	11	6	16	17	24	23	1	0	119
カナダ	1年生		6	9	12	12	6	4	5	3	2	2	61
	2年生		5	10	9	12	7	8	5	1	1	0	58
	計		11	19	21	24	13	12	10	4	3	2	119
スペイン	1年生		2	5	7	11	10	10	11	3	0	2	61
	2年生		1	6	8	8	8	15	7	4	1	0	58
	計		3	11	15	19	18	25	18	7	1	2	119

b 男子学生

国名	順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	計
日本		8	2	0	2	0	0	1	0	0	0	13
韓国		0	1	1	0	0	1	2	2	6	0	13
米国		1	1	1	1	2	1	3	1	2	0	13
ソヴィエト		0	1	0	2	1	4	0	2	3	0	13
仏		0	3	4	2	0	3	0	1	0	0	13
英		3	2	1	2	1	3	0	1	0	0	13
カナダ		0	1	4	2	2	1	1	2	0	0	13
スペイン		0	2	0	2	1	0	3	3	2	0	13
中国		1	1	2	0	6	0	3	0	0	0	13
計		13	14	13	13	13	13	13	12	13	0	

(18) 公州師範大生の集計表

国名	順位 性別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	不明	計
	女	子														
韓 国	女	子	45	1	5	2	3	3	0	6	1	0	0	0	4	70
	男	子	32	4	1	0	3	2	2	0	0	0	0	1	6	51
	計		77	5	6	2	6	5	2	6	1	0	0	1	10	121
北 朝 鮮	女	子	2	15	10	9	9	10	4	5	2	0	0	0	4	70
	男	子	2	4	3	12	1	7	8	5	4	0	2	0	3	51
	計		4	19	13	21	10	17	12	10	6	0	2	0	7	121
ア メ リ カ	女	子	0	11	5	10	9	7	11	3	2	3	1	0	8	70
	男	子	4	6	4	3	5	6	3	2	2	5	3	0	8	51
	計		4	17	9	13	14	13	14	5	4	8	4	0	16	121
日 本	女	子	0	0	0	1	0	3	7	4	13	11	13	9	9	70
	男	子	1	0	2	2	1	2	7	3	6	4	4	12	7	51
	計		1	0	2	3	1	5	14	7	19	15	17	21	16	121
ソ ヴ ィ エ ト	女	子	0	0	0	0	1	3	2	2	2	7	11	29	13	70
	男	子	0	0	0	0	0	0	1	3	3	5	6	25	8	51
	計		0	0	0	0	1	3	3	5	5	12	17	54	21	121
東 独	女	子	0	0	1	0	2	4	3	3	11	12	18	7	9	70
	男	子	0	0	3	0	1	0	3	3	5	15	10	4	7	51
	計		0	0	4	0	3	4	6	6	16	27	28	11	16	121
ス イ ス	女	子	13	10	10	10	12	2	3	2	0	0	0	0	8	70
	男	子	3	16	5	5	3	5	2	3	2	0	1	0	6	51
	計		16	26	15	15	15	7	5	5	2	0	1	0	14	121
英 国	女	子	4	10	18	12	10	6	2	1	0	0	0	0	7	70
	男	子	1	5	11	6	10	5	1	4	2	1	1	0	4	51
	計		5	15	29	18	20	11	3	5	2	1	1	0	11	121
中 国	女	子	0	3	2	1	1	4	15	16	11	3	5	2	7	70
	男	子	0	2	1	4	5	7	7	8	4	4	1	0	8	51
	計		0	5	3	5	6	11	22	24	15	7	6	2	15	121
西 ド イ ッ ツ	男	子	0	8	13	7	7	5	2	1	2	2	0	1	3	51
	女	子	3	10	7	12	8	10	8	3	0	0	0	0	9	70
	計		4	18	20	19	15	15	10	4	2	2	0	1	11	
台 湾	男	子	1	1	4	2	4	1	0	10	6	9	7	1	5	51
	女	子	0	2	0	2	2	1	2	4	16	18	6	8	9	70
	計		1	3	4	4	6	2	2	14	22	27	13	7	16	16
ス ペ イ ン	男	子	1	2	4	4	5	4	10	3	10	1	3	1	3	51
	女	子	0	5	7	2	6	10	6	7	6	6	3	0	12	70
	計		4	7	11	6	11	14	16	10	16	7	6	1	12	

(19) ローゼンバーグ自己評価テスト

まず原文, そして使用した日本文, 韓国文, ドイツ文の順番で示す。

(原 文)

I On the whole, I am satisfied with myself.

1. ___ Strongly agree

2. ___ Agree

*3. ___ Disagree

*4. ___ Strongly disagree

II At times I think I am no good at all.

*1. ___ Strongly agree

*2. ___ Agree

3. ___ Disagree

4. ___ Strongly disagree

III I feel that I have a number of good qualities.

1. ___ Strongly agree

2. ___ Agree

*3. ___ Disagree

*4. ___ Strongly disagree

IV I am able to do things as well as most other people.

1. ___ Strongly agree

2. ___ Agree

*3. ___ Disagree

*4. ___ Strongly disagree

V I certainly feel useless at times.

*1. ___ Strongly agree

*2. ___ Agree

3. ___ Disagree

4. ___ Strongly disagree

VI I feel I do not have much to be proud of.

*1. ___ Strongly agree

*2. ___ Agree

3. ___ Disagree

4. ___ Strongly disagree

VII I feel that I'm a person of worth, at least on an equal plane with others.

1. ___ Strongly agree

2. ___ Agree

*3. ___ Disagree

*4. ___ Strongly disagree

VIII I wish I could have more respect for myself.

*1. ___ Strongly agree

*2. ___ Agree

3. ___ Disagree

4. ___ Strongly disagree

IX All in all, I am inclined to feel that I am a failure.

*1. ___ Strongly agree

*2. ___ Agree

3. ___ Disagree

4. ___ Strongly disagree

X I take a positive attitude toward myself.

1. ___ Strongly agree

2. ___ Agree

*3. ___ Disagree

*4. ___ Strongly disagree

Reproducibility and Scalability (再現性係数と尺度化可能性)

Reproducibility : 93%

Scalability (items) : 73%

Scalability (individuals) : 72%

なお採点法は, 注(20)で示す。

(日本文)

年齢 _____ 男・女

次の各項目について自分にあてはまるものをえらび, 番号に○をして下さい。

I 概して言えば私は自分に満足している

1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない

- II 時々私は自分が全く駄目な人間だと思う
 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない
- III 私は自分にいくつか良い点があると思う
 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない
- IV 私はたいいていの人と同じ程度に物事ができる
 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない
- V 私は時々自分が役に立たない人間だと確信する
 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない
- VI 私は自分が誇りとするものをあまり持っていないと思う
 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない
- VII 私は自分が少なくとも他の人たちと同じ程度に価値のある人間だと思う
 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない
- VIII 私はもっと自分を尊重できないものだろうかと思う
 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない
- IX 概して言えば、私は自分が失敗者だと思いがちである
 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない
- X 私は自分が好きだ
 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 少しもそう思わない

(韓国文)

該當欄에記入하거나 O票를 하세요.

大學名 _____ 學部 _____ 學年 _____ 年齡 _____ 男女 _____

다음 各項目에 대하여 自己에게 알맞는 것을 選擇하여 番號에 O표 하시오.

- | | | |
|-------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 대개 나는 自身에 대하여 하고 있다. | 1 크게 滿足하고 있다.
3 滿足하고 있지 않다. | 2 滿足하고 있다.
4 조금도 만족하고 있지 않다. |
| 2 때때로 나는 쓸모없는 人間 이라고 생각한다. | 1 정말로 그렇게 생각한다.
3 별로 생각지 않는다. | 2 그렇게 생각한다.
4 조금도 생각지 않는다. |
| 3 내게는 長點이 많이 있다고 생각한다. | 1 정말로 그렇다고 생각한다.
3 별로 그렇게 생각하지 않는다. | 2 그렇게 생각한다.
4 조금도 생각지 않는다. |
| 4 나는 보통사람과 같은程度의 力量을 가졌다고 생각한다. | 1 꼭 그렇게 생각한다
3 별로 생각지 않는다 | 2 그렇게 생각한다.
4 조금도 생각지 않는다. |
| 5 나는 쓸모가 없는 人間이 라고 생각하는 때가 있다. | 1 자주 그렇게 생각한다.
3 별로 생각지 않는다. | 2 그렇게 생각한다.
4 조금도 생각지 않는다. |
| 6 나는 이것만은 자랑하여도 좋다고 생각할만한 것이 별로 없다. | 1 정말로 그렇게 생각한다.
3 별로 그렇게 생각지 않는다. | 2 그렇게 생각한다.
4 조금도 그렇게 생각지 않는다. |
| 7 나는 적어도 다른사람들과 | 1 물론 그렇게 생각한다. | 2 그렇게 생각한다. |

- | | | |
|------------------------------------|-----------------------|----------------------|
| 같이 살아야될 價値가 있다
고 생각한다. | 3 별로 생각지 않는다. | 4 조금도 생각지
않는다. |
| 8 나는 더욱 나自身을 尊重
할 氣分이 없는가 생각한다. | 1 그렇게 생각한다. | 2 그렇게 생각할
수도 있다. |
| | 3 그렇게 까지는 생각지
않는다. | 4 그렇게는 생각지
않는다. |
| 9 結局 나는 人生의 落伍者
라고 생각하고 싶어진다. | 1 정말로 그렇게 된다. | 2 그렇게 된다. |
| | 3 그렇게 되지않는다. | 4 조금도 그렇게
되지 않는다. |
| 10 나는 언제나 나의 主觀을
積極的으로 살리고 있다. | 1 꼭 살린다. | 2 살린다. |
| | 3 별로 살리지 않는다. | 4 조금도 살리지
않는다. |

(ドイツ文)

Prof. H. Kishimoto

Meiji-Universität, Japan

Bei dieser Untersuchung handelt es sich um eine internationale Vergleichsstudie.

In den folgenden Fragen geht es um Aussagen zur eigenen Person. Alle Angaben sind völlig anonym, Erfasst wird lediglich die Angabe des Geschlechts, des Alters und des Studienfaches.

Bitte lesen Sie sich die einzelnen Aussagen aufmerksam durch und entscheiden Sie, in welchem Ausmaß diese auf Sie zutreffen. Es stehen Ihnen 4 verschiedene Antwortmöglichkeiten zur Verfügung: "trifft sehr zu", "trifft zu", "trifft nicht zu", "trifft gar nicht zu". Kreuzen Sie zu jeder Aussage jeweils ein Kästchen an. Beantworten Sie bitte unbedingt alle Fragen.

Geschlecht: ☐ männlich ☐ weiblich

Alter:

Studienfach:

- | | trifft
sehr zu | trifft
zu | trifft
nicht
zu | trifft
gar nicht
zu |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 1. Im allgemeinen bin ich mit mir selbst zufrieden | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 2. Manchmal finde ich mich unnütz | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3. Ich glaube, daß ich eine Reihe guter Eigenschaften besitze | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 4. Ich besitze die gleichen Fähigkeiten wie die meisten anderen Menschen | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5. Manchmal fühle ich mich un-tüchtig | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 6. Ich habe wenig, worauf ich stolz sein kann | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 7. Ich betrachte mich als eine wertvollen Menschen: Zumindest stehe ich auf gleicher Stufe mit | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

anderen

8. Ich wünschte, ich hätte mehr ☐ ☐ ☐ ☐

Selbstrespekt

9. Alles in allem neige ich dazu zu ☐ ☐ ☐ ☐

glauben, daß ich ein Versager bin

10. Ich sehe mich selbst sehr positiv ☐ ☐ ☐ ☐

(20) ローゼンバークテストの採点法

以上の10問のそれぞれ1から4のうち、1つずつ選択してもらう。得点化は、

Iで3か4（英文原文では※印をつけてある。以下同じ）を選択1点。

IIで1か2，Vで1か2，以上一つないし二つ選択1点。

IIIで3か4，VIIで3か4，IXで1か2，以上二つないし三つ選択1点。

IVで3か4，VIで1か2，以上1一つないし2二つ選択1点。

VIIIで1か2選択1点。

Xで3か4選択1点。

以上の6分類でそれぞれ該当しない場合は、いずれも0点となる。したがって最低点（自己評価は最も高い）は0点，最高点（自己評価は最も低い）6点となる。なお順番を，以上のようにしてあるのは，ステレオタイプな解答がなされないように，肯定と否定の質問を交互にするように配慮されているためである。

A Cross-Cultural Study on Adolescents in Japan, Korea and West Germany based on Questionnaires

Hiromu Kishimoto

This report is about the results of a comparative study between 1987 and 1988 on the students in West Germany, Korea and Japan who were given questionnaires using the Rosenberg Self-Esteem Scale. Fig. 1 shows the results of Rosenberg Self-Esteem tests conducted on the students of John Wolfgang Goethe University, West Germany, Kongju National Teachers College, Korea, and Meiji University and Saga Fine Art College, Japan, and the standard self-esteem scale of the U.S. students. The self-esteem of the students in West Germany is the highest, followed by the U.S. standard and that of the students in Korea. There is no marked difference between the results of the students in these three countries. However, only the self-esteem of Japanese students is considerably low. It is considered, first of all, that this result may clearly reflect "one of the characteristics of Japanese culture that humility or self-depreciation is a virtue." This result had been well expected but was surprisingly different from those of other countries.

In terms of the differences between sexes, as shown in Fig. 2, 3 and 4, male students in all three countries have higher self-esteem than female students. Such results are considered to fairly reflect the traits

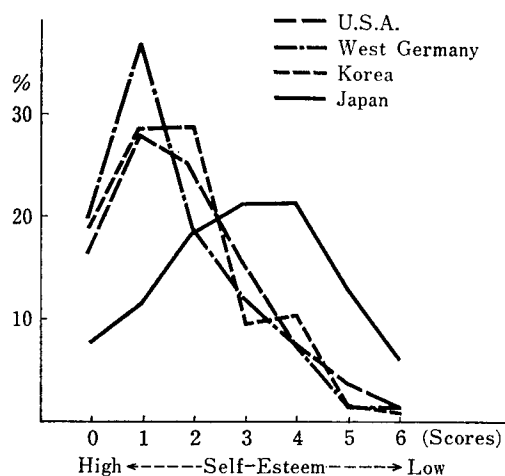


Fig. 1 Self-Esteem of Japanese, Korean, West German and U.S. Students

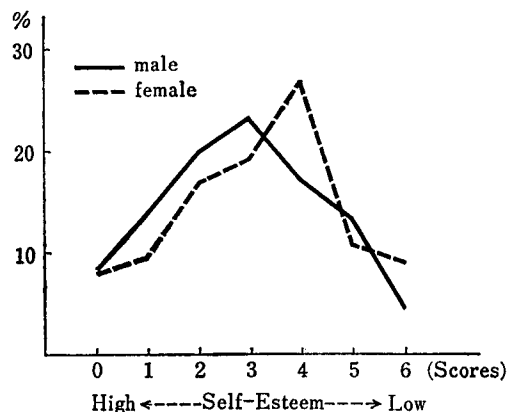


Fig. 2 Self-Esteem of Japanese students (sophomore)

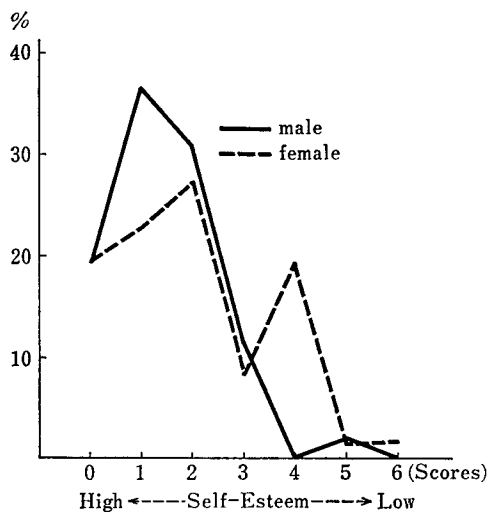


Fig. 3 Self-Esteem of Korean students

of each sex: the male makes great efforts with confidence to achieve high aims, desiring strongly his success with achievement motives. On the other hand, the female with the fear to avoid success is modest in showing her intelligence.

Considering these characteristics, the self-esteem of Japanese students is lower than was expected (see Fig. 5 and 6). I am planning to study the development

of self-esteem of students by comparing the results of similar surveys to be conducted on college and high school students in the above countries.

In addition, this report includes the following comparative studies on

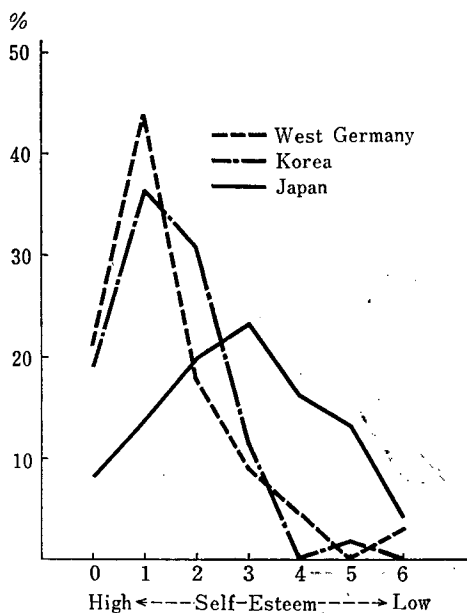


Fig. 5 The male Students of Korea, West Germany and Japan

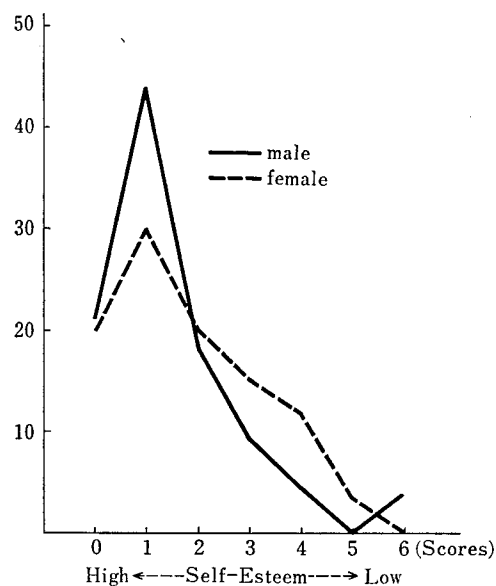


Fig. 4 Self-Esteem of West German students

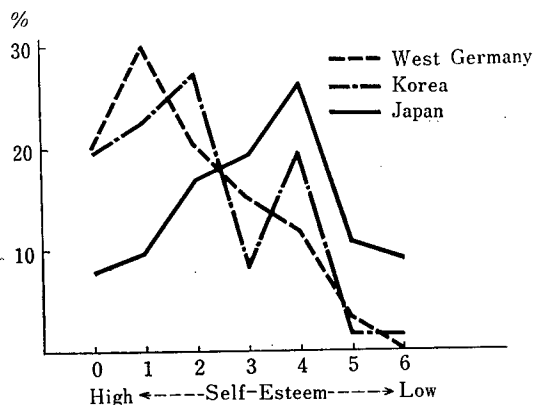


Fig. 6 The female Students of Korea, West Germany and Japan

Japanese and Korean students :

- 1) Schools in favor and out of favor with students
- 2) Students' views on life
- 3) Countries in favor and out of favor with students
- 4) Japanese students' views on Japan.